

非常に好調な業績

2023 年 第 3 四半期	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	表示	基礎的	表示	基礎的
収益	63 億 4,300 万ユーロ 前年同期比+19.2%	60 億 6,000 万ユーロ 前年同期比+13.4%	92 億 4,900 万ユーロ 前年同期比+12.5%	88 億 4,700 万ユーロ 前年同期比+7.3%
費用 (SRF を除く)	-33 億 7,600 万ユーロ 前年同期比+8.0%	-33 億 7,600 万ユーロ 前年同期比+8.3%	-52 億 6,500 万ユーロ 前年同期比+6.5%	-52 億 6,500 万ユーロ 前年同期比+6.7%
営業総利益	29 億 6,700 万ユーロ 前年同期比+35.2%	26 億 8,400 万ユーロ 前年同期比+20.6%	39 億 8,400 万ユーロ 前年同期比+21.5%	35 億 8,200 万ユーロ 前年同期比+8.2%
リスク関連費用	-4 億 2,900 万ユーロ 前年同期比+19.3%	-4 億 2,900 万ユーロ 前年同期比+19.3%	-6 億 9,300 万ユーロ 前年同期比+9.0%	-6 億 9,300 万ユーロ 前年同期比+9.0%
純利益グループ 帰属分	17 億 4,800 万ユーロ 前年同期比+32.8%	15 億 2,000 万ユーロ 前年同期比+23.0%	23 億 8,400 万ユーロ 前年同期比+21.0%	20 億 6,800 万ユーロ 前年同期比+9.3%
コスト比率 (SRF を除く)	53.2% 前年同期比-5.5 ポイント	55.7% 前年同期比-2.6 ポイント	56.9% 前年同期比-3.2 ポイント	59.5% 前年同期比-0.3 ポイント

前年同期比の変動は IFRS 第 17 号に基づく見積ベースです。

好調な業績と高い収益性

- すべての事業部門による**力強い収益成長**(基礎収益で前年同期比 13.4%増)
 - 当四半期の RBC IS の欧州事業統合をはじめとするパートナーシップや開発プロジェクトの継続的なフローが収益に寄与
 - 新たな金利環境へのリテール・バンキングの適応が進み、フランス国内(依然として融資の減速は顕著)でも国外でも純金利マージンが安定化。預金は成長回復
 - 資産運用では全資産クラスおよびジョイント・ベンチャーで資金流入が好調、保険事業ではユニット・リンク型商品への純流入が良好、損害保険および死亡・高度障害保険が活発に推移
 - 法人営業及び投資銀行部門(CIB)は高水準の第 3 四半期の収益を達成。資本市場及び投資銀行業務(FICC)、ストラクチャード・ファイナンスと現金管理がともに好調
 - 自動車ファイナンスの商業的な勢いの恩恵を受けた消費者金融が、他のフランスの事業セクターの組成減少を一部相殺
- 主に連結範囲変更の影響(CA オートバンクと RBC IS の連結)により、インフレ環境の中でも**コストは抑えられ**、前年同期比で 8.3%増(SRF を除く基礎ベース)
- 2023 年 9 ヶ月累計期間の**コスト比率**は 53.4%(SRF を除く基礎ベース)で、MTP 目標を未達
- 2023 年 9 ヶ月累計期間の **RoTE**(有形株主資本利益率)は 13.5%となり(基礎収益)、収益性の高さを反映

継続的な資本創出

- CA S.A の段階適用の CET1 レシオは 11.8%となり、成長と販売の目標と一致
- GCA の段階的な CET1 レシオは 17.5%(SREP を 820 ベーシス・ポイント上回る)

非常に堅実な資産の質と流動性プロフィール

- クレディ・アグリコル・グループ全体で LCR は 150.8%、流動性準備金は 4,190 億ユーロ
- GCA では正常債権の引当金残高は 209 億ユーロ、引当率は 82.7%

エネルギー転換

- 新たに Crédit Agricole Transitions & Énergies (CATE) 事業ラインを構築し、この分野でエネルギーサービスを立ち上げ
- 気候戦略の下でのネットゼロの取り組みを継続、2023 年 12 月 14 日に気候ワークショップの発表を予定

ドミニク・ルフェーブル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A. の取締役会議長

「今四半期の業績は非常に好調です。これにより、当グループは、フランスの住宅建設・所有システムを実現すること、そして長期的な社会変革をサポートすることにさらに注力することができます。顧客のニーズに対応しようと日々努めているすべての担当者と協働者に感謝します。」

フィリップ・ブラサック

クレディ・アグリコル S.A. 最高経営責任者

「今回も非常に好調となった業績は、当グループのモデルに組織的に刻み込まれているものです」

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A. に加え、クレディ・アグリコル S.A. の各事業体とクレディ・アグリコル S.A. の 59.7% を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。基礎純利益計算のためのあらゆる指標において修正再表示されている特殊要因の詳細については、当プレスリリースの付属資料をご覧ください。2022 年の数値はすべて、IFRS 第 17 号に基づく見積もりベースで表示されています。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

商業活動は、フランスのリテール・バンキング部門が当四半期に減速しましたが、他の事業部門が好調だったことで相殺されました。2023 年第 3 四半期のリテール・バンキング総顧客獲得数は 44 万 5,000 人(2022 年第 3 四半期は 46 万人)となり、顧客基盤は 82,000 人増加しました¹(2022 年第 3 四半期は 105,000 人増)。具体的には、フランスのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 353,000 人増、イタリアとポーランドの国際リテール・バンキングの新規顧客数が 92,000 人増となり、顧客基盤もそれぞれ 61,000 人増、20,000 人増と拡大しました。

フランスにおけるリテール・バンキング部門の減速は、フランスのリテール・バンキング部門のローン組成の減少により浮き彫りになりました。結果として、2023 年第 2 四半期から 2023 年第 3 四半期までの間に、ローン組成は、地域銀行で 12%減少、LCL では 3.2%減少しました。消費者金融においても、ローン申請プロセスにおける選別性が高まったことを反映して組成は 2022 年第 3 四半期と比べて 2.1%減少しましたが、自動車向けの組成は堅調に推移し、2022 年第 3 四半期と比べて 6.7%増加しました。最後に、CA イタリアでは、ローン組成は力強く回復し、2023 年第 2 四半期と比べて 19%増加しました。

フランスのリテール事業の減速は、他の事業の好調な業績によって相殺されました。実際、法人営業及び投資銀行部門は、資本市場及び投資銀行業務ならびにストラクチャード・ファイナンスと現金管理で大きな伸びを示し、2023 年 9 ヶ月累計期間に収益と純利益の両方で過去最高を記録したほか、2023 年第 3 四半期も高水準となりました。同部門は引き続き主導的な地位を維持しており、フランスのシンジケートローンで第 1 位²、ユーロ建てのグリーン・社会・持続可能性債で第 2 位³、ユーロ建ての世界の債券で第 2 位²となっています。資産運用は当四半期、すべての資産クラス(中長期資産とトレジャリー商品)とジョイントベンチャーがプラスの寄与となり、好調な資金流入(137 億ユーロ)から恩恵を受けています。また、保険では、ユニット・リンク型商品への好調な純流入が特徴的であり、ユニット・リンク型商品は当四半期の総流入額の 40.3%を占めました。損害保険のクロスセル・レートは、地域銀行では 43.1%(2022 年第 3 四半期と比べて 0.5 ポイント増)、LCL では 27.6%(同 0.5 ポイント増)、CA イタリアでは 18.3%(同+2.2 ポイント)に上昇しました。損害保険の収益は 2022 年第 3 四半期と比べて 8.9%増加しました。死亡・高度障害保険の事業活動は活発でした(2022 年第 3 四半期と比べて収益は 22%増加)。

最後に、リテール・バンキング部門のバランスシートにおける顧客貯蓄額は 8,070 億ユーロとなり⁴、2023 年 6 月と比べて 1.3%増加しました(2023 年 6 月は 2023 年 3 月と比べて 0.5%増)。内訳は、地域銀行が 1.4%増、LCL が 0.9%増、CA イタリアが 1.2%増でした。

自己資金による一連の買収は増収に寄与し、相乗効果を実現

クレディ・アグリコル S.A.は、収益の成長を支えるために、内部的な成長の原動力だけでなく、買収や外部パートナーシップも活用しており、各事業ラインは欧州市場における取りまとめ役を果たしています。2019 年以降のこれらの買収はすべて自己資金によるもので、コストと収益の相乗効果を生み出してきました。最近の外部の成長事業は成功を収めています。中でも、2019 年の Santander Securities Services と KAS バンクは資産管理サービス事業ライン(CACEIS)の地理的範囲の拡大、Sabadell Asset Management は販売網の拡大、Lyxor は資産運用業務の専門知識の強化、Creval はイタリアにおけるリテール・バンキング部門の競争力の強化につながり、コストの相乗効果を生み出しました。

¹ 2023 年 9 ヶ月累計期間の総顧客獲得数は 147 万 2,000 人、顧客基盤は 34 万 9,000 人。

² リフィニティブ

³ ブルームバーク

⁴ 内訳は地域銀行が 5,870 億ユーロ、LCL が 1,560 億ユーロ、CA イタリアが 640 億ユーロ

それ以降、クレディ・アグリコル S.A.は、5 つの主要な開発分野に基づいて、新たな買収を実施し、新たなパートナーシップを構築してきました。第一に、Degroof Petercam との取引が進行中であることと⁵、2023 年 8 月に RBC Investor Services の欧州事業を買収したことにより、プライベート・バンキングと資産運用サービスの規模が拡大しました。その後、専門金融サービス部門は包括的なモビリティサービスの展開を進めました。すなわち、長期レンタカー分野で欧州の主要企業となるために Stellantis と共同でジョイントベンチャーLeasys を設立し、小規模メーカーや独立系ディストリビューターとの提携関係を構築するために CA オートバンクの 100%を買収、さらに ALD と LeasePlan の欧州子会社 6 社を買収し、最後に 2026 年までに 20 のサービス提供を開始する目的で CA モビリティサービスを設立しました。これは主に、WATEA の少数株式の取得⁶、Opteven との合併会社の設立⁷、HiFlow の株式の取得を通じて行われます。同時に、クレディ・アグリコルとバンコ・ビー・エムとのイタリアにおける損害保険および信用保険の販売契約⁸や、パンフィカとルノーとの自動車保険の提携 (Mobilize Financial Services) など、新たな業務提携を通じて保険事業部門は販売網を拡大しました。最後に、クレディ・アグリコル S.A.は、Casino の財産管理事業を買収してプロパティサービス事業を構築しており、Worklife の株式取得⁹や決済サービス分野での Wordline との提携¹⁰により、デジタル化とイノベーションを強化しています。

これらの事業は、クレディ・アグリコル S.A.の増収を支えています。このように、Creval、Lyxor、Santander Securities Services、RBC Investor Services との買収取引と、CA Auto Bank の連結¹¹により、2025 年にはネットバンキング収入は 19 億ユーロ¹²、コスト比率は 58%になる見通しです¹³。

新規事業の立ち上げ : Crédit Agricole Transitions & Energies

クレディ・アグリコル S.A.は、新たに Crédit Agricole Transitions & Energies (CATE) 事業ラインを構築し、2023 年 10 月にそのロードマップが提示されました。CATE は、フランスの各地域でエネルギー転換と再生可能エネルギーの開発に関する助言サービスを含むグローバルなサービスを提供しており、エネルギー転換とカーボンフリーのエネルギー発電・供給プロジェクトのための資金調達を支援しています。

移行アドバイザリー・サービスは、お客様がエネルギー・環境保全プロセスを実施する際のサポートに特化しています。また、CATE には、法人、公的機関向けの R3¹⁴や個人顧客向けの「J'écoprenove mon logement」プラットフォーム¹⁵により提供する幅広いソリューションがあります。

ファイナンスサービスには、Unifergie および当グループのファイナンス事業体によるすべての再生可能エネルギー発電・エネルギー効率化プロジェクトに対する包括的な金融ソリューションの提供のほか、財務・法務上のエンジニアリングの提供、持続可能エネルギーのさまざまな分野 (再生可能エネルギー、エネルギーパフォーマンス、環境) でのファイナンスの提供が含まれます。CATE は、2030 年までに、フランスのクレディ・アグリコルグループの事業体から提供された 190 億ユーロの資金を活用することを目指しています。また、CATE は、開発者の資本を強化し、生産能力を獲得するために 10 億ユーロを投資することを目指します。

最後に、CATE は、開発者、地方自治体、消費者のために、再生可能なエネルギー源から各地域での発電と電力供給を行います。2028 年にはグループ所有の資産から 2GW の設備生産能力を実現し、2026 年までに 19 万 6,000 人の年間消費量に相当する 500MWh の低炭素電力を供給することを目指します。このサービスは、CATE が主要株主となっている Selfee が提供します。Selfee は、フランス地域で発電された電力を現地のサプライチェーンを通じて現地価格で購入することを可能にする電力事業者であり、エネルギー生産者の唯一の仲介業者となります。

⁵ 資本の過半数の株式を取得するための契約の合意

⁶ 月額サブスクリプションのデジタル車両管理ツール

⁷ 延長保証

⁸ さらに Banco BPM の資本金 9.9%を取得

⁹ 従業員福利厚生管理ツール

¹⁰ 革新的な商用サービスを開発するジョイントベンチャーの設立

¹¹ CA オートバンクのネットバンキング収入の 50%を計算上統合

¹² これらの数字には、財務諸表で既に統合されている数件の取引、ならびに今後見込まれるデータが含まれます。

¹³ 統合コストを除く

¹⁴ CATE が大株主である R3 が提供する

¹⁵ オンライン診断テストにより、実行すべき作業の推奨事項と見積もり、利用可能な支援に関する情報を提供。ウェブサイト訪問数は 2023 年に 100 万件となる見込み。

当グループの業績

2023 年第 3 四半期に、クレディ・アグリコル・グループの表示純利益グループ帰属分は、2022 年第 3 四半期と比べて 21.0%増の 23 億 8,400 万ユーロでした。

当四半期に計上された特殊要因は純利益グループ帰属分に 3 億 1,700 万ユーロの累積影響を与え、その内訳は経常的な会計項目が 2 億 9,800 万ユーロ、非経常的項目が 1,900 万ユーロでした。経常項目は、主に 2 億 9,700 万ユーロの住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ (LCL が 3,800 万ユーロ、コーポレート・センターが 1 億 7,100 万ユーロ、地域銀行が 8,800 万ユーロ) に対応しています。その他の経常項目、すなわち FVA の発行体スプレッド部分¹⁶と担保付き貸出 (200 万ユーロ増) と、ローンブックのヘッジ (100 万ユーロ減) は相殺されました。非経常的項目は、SFS 部門のモビリティ事業¹⁷の継続的な再編に関するものです (1,900 万ユーロ増)。

これらの特殊要因の修正再表示後で、クレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分¹⁸は、2022 年第 3 四半期と比べて 9.3%増の 20 億 6,800 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループー表示実績と基礎的実績 (2023 年第 3 四半期と 2022 年第 3 四半期)

m€	Q3-23 stated	Specific items	Q3-23 underlying	Q3-22 stated	Specific items	Q3-22 underlying	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlying
Revenues	9,249	402	8,847	8,222	(22)	8,244	+12.5%	+7.3%
Operating expenses excl. SRF	(5,265)	0	(5,265)	(4,943)	(9)	(4,934)	+6.5%	+6.7%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	3,984	402	3,582	3,280	(30)	3,310	+21.5%	+8.2%
Cost of risk	(693)	0	(693)	(636)	-	(636)	+9.0%	+9.0%
Equity-accounted entities	37	(26)	63	111	-	111	(66.8%)	(43.0%)
Net income on other assets	69	61	9	6	-	6	x 10.7	+32.2%
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	3,397	436	2,961	2,762	(30)	2,792	+23.0%	+6.0%
Tax	(810)	(120)	(691)	(736)	6	(742)	+10.0%	(7.0%)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	2	-	2	123	101	22	(98.7%)	(92.4%)
Net income	2,588	317	2,272	2,149	77	2,071	+20.5%	+9.7%
Non controlling interests	(204)	-	(204)	(178)	2	(180)	+14.9%	+13.5%
Net income Group Share	2,384	317	2,068	1,971	79	1,892	+21.0%	+9.3%
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	56.9%		59.5%	60.1%		59.8%	-3.2 pp	-0.3 pp

2023 年第 3 四半期の基礎収益は 88 億 4,700 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 7.3%増加しました。この原動力となったのは、保険の収益増加の恩恵を受けたアセット・ギャザリング部門 (9.6%増)、2023 年第 2 四半期以来の CA オートバンクの完全連結を含む専門金融サービス部門 (26.2%増)¹⁷、欧州 6 カ国における ALD と LeasePlan の事業の買収 (当四半期) でした。国際リテール・バンキングの収益は 24.0%増加し、イタリア、ポーランド、エジプトでの純金利マージンは横ばいにとどまりましたが、依然として良好な傾向にあります。フランスのリテール・バンキング部門の収益 (3.2%減) は、借り換えコストと顧客リソースの増加により減少しました。大口顧客部門は、CIB の記録的な収益 (2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9%増) により、17.4%の増収となりました。

¹⁶ DVA (債務評価調整)

¹⁷ CACF グループのモビリティ事業の再編に関連して、2023 年第 2 四半期に 1 億 4,000 万ユーロの非経常的な影響があったのに続き、2023 年第 3 四半期には 1,900 万ユーロが追加されました。なお、これには、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク (旧 FCA バンク) の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編 (特にアプリケーション・ソリューションの見直し) が含まれました。

¹⁸ 特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

SRF(単一破綻処理基金)を除く基礎的な営業費用は 52 億 6,500 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 6.7%増加しました。この増加の主因は、専門金融サービス部門における CA オートバンクの連結と資産運用サービス部門における RBC IS Europe の事業に関連する連結範囲の影響(1 億 7,800 万ユーロ)と、給与報酬、変動報酬引当金、IT 投資、コストの増加の影響です。全体として、**SRF を除く基礎コスト比率**は 59.5%と、2022 年第 3 四半期から 0.3 ポイント低下しました。**基礎営業総利益**は 2022 年第 3 四半期と比べ 8.2%増加し、35 億 8,200 万ユーロとなりました。

基礎信用リスク関連費用は、2022 年第 3 四半期の 6 億 3,600 万ユーロと比べ 9.0%増と小幅増加し、6 億 9,300 万ユーロとなりました。2023 年第 3 四半期の費用 6 億 9,300 万ユーロの内訳は、正常債権の戻し入れ(ステージ 1 及び 2)が 2,800 万ユーロ(一部の貸付の債務不履行への移行に起因。2022 年第 3 四半期は 2 億 900 万ユーロの追加)、確認済みリスクの引当金が 7 億 2,400 万ユーロ(ステージ 3。2022 年第 3 四半期には 4 億 9,800 万ユーロ。悪化の要因は、リテール・バンキングと消費者クレジットの確認済みリスクの増加)、最後にその他のリスクに関する戻し入れが 300 万ユーロでした。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに調整を加えることによって決定されました。第 2 四半期の加重経済シナリオは更新され、楽観的なシナリオ(フランスの GDP 成長率は 2023 年に+1%、2024 年に+2.4%)と楽観的でないシナリオ(フランスの GDP 成長率は 2023 年に+0.1%、2024 年は-0.1%)が含まれています。**残高に対する信用リスク関連費用¹⁹**は、ローリング 4 四半期で 25 ベーシス・ポイントとなり、中期計画の想定の 25 ベーシス・ポイントとほぼ一致する水準となっています。年換算の四半期ベースでは 24 ベーシス・ポイントです²⁰。

税引前基礎利益は、前年比 6.0%増の 29 億 6,100 万ユーロでした。税引前基礎利益には、持分法適用会社の寄与 6,300 万ユーロ(43.0%減。主に、CA オートバンク(旧 FCA バンク)の完全連結による)及びその他の資産に関する当四半期の純利益 900 万ユーロが含まれています。当四半期には**基礎税金費用**は 7.0%減少しました。非支配持分控除前の**基礎純利益**は 9.7%増加して 22 億 7,200 万ユーロとなりました。非支配持分は 13.5%増加しました。最後に、**基礎純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期から 9.3%増の 20 億 6,800 万ユーロでした。

¹⁹ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均(CA オートバンクの残高の再統合後)で除して算出されています。

²⁰ 年換算の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高(CA オートバンクの残高の再統合後)で除して算出されています。

クレディ・アグリコル・グループー表示実績と基礎的実績(2023 年 9 ヶ月累計期間と 2022 年 9 ヶ月累計期間)

€m	9M-23 stated	Specific items	9M-23 underlying	9M-22 stated	Specific items	9M-22 underlying	Δ 9M/9M stated	Δ 9M/9M underlying
Revenues	27,722	758	26,965	25,953	543	25,410	+6.8%	+6.1%
Operating expenses excl.SRF	(15,782)	(18)	(15,764)	(15,021)	(90)	(14,931)	+5.1%	+5.6%
SRF	(620)	-	(620)	(803)	-	(803)	(22.8%)	(22.8%)
Gross operating income	11,321	739	10,581	10,129	453	9,677	+11.8%	+9.3%
Cost of risk	(2,179)	(84)	(2,095)	(2,139)	(195)	(1,944)	+1.9%	+7.7%
Equity-accounted entities	190	(39)	229	323	-	323	(41.0%)	(29.0%)
Net income on other assets	107	89	18	41	-	41	x 2.6	(56.0%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	9,438	705	8,733	8,354	258	8,096	+13.0%	+7.9%
Tax	(2,293)	(180)	(2,113)	(2,211)	(117)	(2,094)	+3.7%	+0.9%
Net income from discounted or held-for-sale operations	7	-	7	148	94	53	(95.0%)	(86.2%)
Net income	7,153	525	6,628	6,291	235	6,056	+13.7%	+9.4%
Non controlling interests	(619)	(0)	(619)	(539)	13	(552)	+14.7%	+12.1%
Net income Group Share	6,534	525	6,009	5,752	248	5,504	+13.6%	+9.2%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	56.9%		58.5%	57.9%		58.8%	-0.9 pp	-0.3 pp

2023 年 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 57 億 5,200 万ユーロから 13.6%増加して 65 億 3,400 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の特殊要因は表示純利益グループ帰属分に 5 億 2,500 万ユーロのプラスの影響を与え、その内訳は経常的な会計項目が 2 億 6,200 万ユーロ、非経常的項目が 2 億 6,300 万ユーロでした。経常項目は主に、前述の住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ(2 億 9,700 万ユーロ)と大口顧客部門の会計変動項目(1,500 万ユーロ減の DVA と 1,900 万ユーロ減のローンブックのヘッジ)に対応しています。非経常的項目は、専門金融サービス部門のモビリティ事業の再編成(1 億 5,900 万ユーロ)²¹と小切手画像処理に関する罰金引当金の戻し入れ(1 億 400 万ユーロ)に関連しています。

これらの特殊要因を除いた基礎純利益グループ帰属分は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.2%増の 60 億 900 万ユーロでした。

基礎収益は 269 億 6,500 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 6.1%増加しました。この増加の要因となったのは、アセット・ギャザリング部門のすべての事業ラインにわたる高収益、専門金融サービス部門における CA オートバンクの完全連結、大口顧客部門における非常に高水準の収益、国際リテール・バンキング部門における純金利マージンの拡大でした。一方、フランスのリテール・バンキング部門の収益は金利マージンの縮小から影響を受けました。

SRF を除く基礎営業費用は 157 億 6,400 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 5.6%増加しました。これには主に、専門金融サービス部門における 2023 年第 2 四半期以降の CA オートバンクの完全連結と、資産運用サービス部門における 2023 年第 3 四半期の RBC IS Europe の事業統合に関連する連結範囲の影響が含まれます。その他の増加分は、インフレ環境での報酬増加と、IT 費用の増加によるものです。

²¹CACF グループのモビリティ事業の再編成に関連して、2023 年第 2 四半期に 1 億 4,000 万ユーロの非経常的な影響があったのに続き、2023 年第 3 四半期には 1,900 万ユーロが追加されました。なお、これには、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク(旧 FCA バンク)の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編(特にアプリケーション・ソリューションの見直し)が含まれました。

SRF を除いたコスト比率は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 0.3 ポイント低下し、58.5%となりました。2023 年の SRF は、前年比で 22.8%減の 6 億 2,000 万ユーロとなりました。

基礎営業総利益は 105 億 8,100 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 9.3%増加しました。

基礎リスク関連費用は 20 億 9,500 万ユーロ(うち、正常債権に対するリスク関連費用 1 億 9,300 万ユーロ(ステージ 1 及びステージ 2)、確認済みリスク関連費用 18 億 8,500 万ユーロ、その他リスク関連費用 1,600 万ユーロ)でした。これは、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 7.7%の増加でした。

2023 年 9 月 30 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル・グループの資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン(残高総額の 46%)と企業向け(残高総額の 32%)に重点が置かれています。貸倒引当金は 209 億ユーロ(地域銀行は 110 億ユーロ)で、うち 42%(地域銀行は 48%)は正常債権に対する引当金でした。グループ全体での正常債権に対する貸倒引当金は、2019 年第 4 四半期から 33 億ユーロ増加しました。これらの貸倒引当金を慎重に管理することにより、クレディ・アグリコル・グループは、欧州の大手銀行の中で最も優れた²²要注意債権引当率(2023 年 9 月末時点で 82.7%)の 1 つを達成しています。

非継続事業と非支配持分控除前の**税引前基礎利益**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 7.9%増加し、87 億 3,300 万ユーロとなりました。税金費用は 0.9%増と微増して 21 億 1,300 万ユーロとなり、基礎的実効税率は 24.8%となりました。

基礎純利益グループ帰属分は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.2%増の 60 億 900 万ユーロでした。

注:特に記載がない限り、事業別の業績に関するコメントは報告済みの業績に基づきます。

²² クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの 2023 年 9 月 30 日時点のデータ。ING、Société Générale、Banco Santander、Standard Chartered、Barclays、BNP Paribas、Deutsche Bank、HSBC、UBS、Unicredit については、顧客貸付、ステージ 3 の残高およびステージ 1、2、3 の引当金に関する 2023 年 9 月 30 日時点の報告に基づく分析。BPCE グループについては、2023 年 6 月 30 日時点の報告 (1) 信用機関を除く総顧客貸付残高に基づく分析。

地域銀行

同期間中、顧客獲得総数は増加し、新規顧客獲得数は 268,000 人増となり、顧客基盤は 44,000 人増加しました。デジタルツールを使用する顧客の数は増加し、「Ma Banque」アプリのユーザーが 900 万人²³に達したほか、オンライン署名数²⁴は 2022 年第 3 四半期から 2023 年第 3 四半期の間に 22%増加しました。個人顧客向けサービス「Ma Banque Au Quotidien」の好調な業績により、カードストックが増加し、改善しました（前年比で 2.0%増、プレミアムカードの割合は 14.4%）。2023 年 9 月末の損害保険のクロスセル・レートは 43.1%となり、2022 年 9 月と比べて 0.5 ポイント上昇しました。

ローン組成は 2022 年第 3 四半期と比べて 25.0%減、2023 年第 2 四半期と比べて 11.9%減となりました。住宅ローンは大幅に減少している（2022 年第 3 四半期比で 36.1 減）ものの、市場全体と比べると小幅にとどまっています²⁵。住宅ローンの組成レートは、2023 年第 2 四半期と比べて 48 ベーシス・ポイント上昇し、2023 年 10 月初めには 20 年～25 年の平均貸出金利は 3.99%に達しました。2023 年 9 月末の貸付残高は、法人向け市場（2022 年第 3 四半期と比べて 6.0%増）を原動力として、6,449 億ユーロになりました（2022 年 9 月末と比べて 3.5%増、2023 年 6 月末と比べて 0.4%増）。

2023 年 9 月末時点の総顧客資産は、前年同期比 3.3%増の 8,719 億ユーロとなりました。この増加は主にオン・バランスシートの預金によるもので、これは 2023 年 9 月末には 5,869 億ユーロとなり、2022 年 9 月末と比べて 2.5%増加しました。2023 年第 2 四半期と比べると、定期預金が 15.6%増加したことにより、オン・バランスシートの預金は 1.4%増加しました。最後に、当四半期中、要求払預金と預金通帳口座は安定的に推移しました。2023 年 9 月末時点のオフ・バランスシートの顧客資産は前年比で 5.0%増加し、2,849 億ユーロとなりました。当四半期中、オフ・バランスシートの預金は全体的に好調に推移し、証券への 7 億ユーロの純流入が牽引しました。

SAS Rue La Boétie の配当²⁶を含む 2023 年第 3 四半期の地域銀行の表示収益は、2022 年第 3 四半期と比べて 0.8%増加し、32 億 9,100 万ユーロになりました。純金利マージンは借り換えコストの増加により 17.6%減少しました（住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ 1 億 1,800 万ユーロを除く）が、ローン利回りの上昇とマクロヘッジにより一部相殺されました。2023 年第 2 四半期から第 3 四半期の間には、純金利マージンは小幅ながら増加しました（住宅購入貯蓄引当金の戻し入れを除く）。2023 年第 3 四半期のポートフォリオ収益は、2022 年第 3 四半期よりも良好な相場環境を反映して増加しました。手数料収入は、決済手段や保険の好調な勢いにより、4.7%増とプラス傾向を維持しました。営業費用は同期間中、主に人件費の増加により、前期比で 4.3%増加しました。営業総利益は 6.7%減少しました。リスク関連費用は 2022 年第 3 四半期と比べて 5.8%減少し、2 億 5,700 万ユーロとなりました。2023 年第 3 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は、2022 年第 3 四半期と比べて 3.8%減の 5 億 6,500 万ユーロでした。

2023 年第 3 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの業績への地域銀行の寄与は、表示純利益グループ帰属分が 5 億 8,700 万ユーロ（6.5%減）となり、収益が 33 億 4,500 万ユーロ（0.3%増）、リスク関連費用が 2 億 5,400 万ユーロ（6.8%減）となりました。

SAS Rue La Boétie の配当を含む 2023 年 9 ヶ月累計期間の収益は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 4.9%減少しました。2023 年 9 ヶ月累計期間に営業費用は 3.5%増加し、その結果、営業総利益は 16.3%減少しました。最後に、リスク関連費用が 0.4%増と小幅増加したのに伴い、SAS Rue La Boétie の配当を含む地域銀行の純利益グループ帰属分は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 15.8%減少し、30 億 3,700 万ユーロになりました。

2023 年 9 カ月累計期間には、クレディ・アグリコル・グループの業績への地域銀行の寄与は、表示純利益グループ帰属分が 14 億 2,000 万ユーロ（34.5%減）となり、収益が 100 億 3,200 万ユーロ（6.8%減）、リスク関連費用が 8 億 3,100 万ユーロ（0.2%増）となりました。

²³ 「Ma Banque」上のアクティブなプロフィール数は当月中に同期が 1 回以上あったことに対応

²⁴ BAM デポジット・モード（マルチチャネルの銀行アクセス）、モバイル・カスタマー・ポータル、または「Ma Banque」アプリで開始された署名

²⁵ 2023 年 8 月末のフランスの住宅ローン組成は 44.3%減（フランス銀行調べ）

²⁶ AS Rue La Boétie の年間配当は第 2 四半期に支払われます。

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2023 年第 3 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2023 年 11 月 7 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. — 表示実績と基礎的実績 (2023 年第 3 四半期と 2022 年第 3 四半期)

€m	Q3-23 stated	Specific items	Q3-23 underlying	Q3-22 stated	Specific items	Q3-22 underlying	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlying
Revenues	6,343	284	6,060	5,321	(22)	5,343	+19.2%	+13.4%
Operating expenses excl. SRF	(3,376)	0	(3,376)	(3,127)	(9)	(3,118)	+8.0%	+8.3%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	2,967	284	2,684	2,195	(30)	2,225	+35.2%	+20.6%
Cost of risk	(429)	0	(429)	(360)	-	(360)	+19.3%	+19.3%
Equity-accounted entities	23	(26)	50	102	-	102	(77.2%)	(51.2%)
Net income on other assets	69	61	8	5	-	5	x 12.6	+52.8%
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	2,630	318	2,312	1,942	(30)	1,973	+35.4%	+17.2%
Tax	(633)	(89)	(544)	(533)	6	(539)	+18.8%	+0.9%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	2	-	2	123	101	22	n.m.	n.m.
Net income	1,999	229	1,770	1,533	77	1,455	+30.4%	+21.6%
Non-controlling interests	(251)	(2)	(250)	(217)	2	(219)	+15.8%	+13.9%
Net income Group Share	1,748	227	1,520	1,316	79	1,236	+32.8%	+23.0%
Earnings per share (€)	0.53	0.07	0.46	0.41	0.03	0.38	+30.1%	+19.5%
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	53.2%		55.7%	58.8%		58.4%	-5.5 pp	-2.6 pp

2023 年第 3 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の表示純利益グループ帰属分は、2022 年第 3 四半期から 32.8% 増加し、17 億 4,800 万ユーロとなりました。

当四半期に計上された特殊要因は純利益グループ帰属分に 2 億 2,700 万ユーロの累積影響を与え、2 億 800 万ユーロの経常的な会計項目と 1,900 万ユーロの非経常的項目が含まれました。経常項目は、主に 2 億 800 万ユーロの住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ (LCL が 3,700 万ユーロ、コーポレート・センターが 1 億 7,100 万ユーロ) に対応しています。その他の経常項目、すなわち FVA の発行体スプレッド部分²⁷と担保付き貸出 (200 万ユーロ増) と、ローンブックのヘッジ (100 万ユーロ減) は相殺されました。非経常的項目は、SFS 部門のモビリティ事業²⁸の継続的な再編に関するものです (1,900 万ユーロ増)。

特殊要因を除くと、基礎純利益グループ帰属分²⁹は、2022 年第 3 四半期と比べて 23.0%増の 15 億 2,000 万ユーロとなりました。

基礎収益は、すべての事業ラインにおける増収により、2022 年第 3 四半期と比べて 13.4%増加し、60 億 6,000 万ユーロとなりました。アセット・ギャザリング部門は、主に 2022 年第 2 四半期の気象関連の悪影響を受けた保険の収益の増加 (19.4%増) により、10.2%の増収となりました。専門金融サービス部門の収益は、当四半期に

²⁷ DVA (債務評価調整)

²⁸ CACF グループのモビリティ事業の再編成に関連して、2023 年第 2 四半期に 1 億 4,000 万ユーロの非経常的な影響があったのに続き、2023 年第 3 四半期には 1,900 万ユーロが追加されました。なお、これには、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク (旧 FCA バンク) の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編 (特にアプリケーション・ソリューションの見直し) が含まれました。

²⁹ 特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

CA オート・バンクの連結³⁰と、ALD と LeasePlan の事業の買収の恩恵を受け、26.2%増加（基礎収益は 26.3%増）しました。大口顧客部門の収益は、RBC IS Europe の欧州事業の統合の恩恵を受け、債券・為替・コモディティ（25.6%増）をはじめとする CIB（9.2%増）の非常に好調な業績と、資産運用サービスの収益（51.5%増）により、17.4%増加しました³¹。フランスのリテール・バンキング部門の収益は、当四半期の純金利マージンの安定を反映して 0.4%増とわずかに改善しました³²。最後に、国際リテール・バンキング部門の収益は 24.1%増加し、CA イタリア（48%増）およびポーランドとエジプト（81%増）の純金利マージンの増加から恩恵を受けました³³。

さらに、当四半期は、クレディ・アグリコル S.A.の 2022 年第 1 四半期以降の純金利マージン³⁴（NIM）の推移がテーマとなり、特にリテール・バンキング部門が焦点となりました。金利上昇の中で全体的な純金利マージンがプラスになったのは、クレディ・アグリコル S.A.の多角的なビジネスモデルと関連しています。実際、フランスのリテール・バンキング部門（LCL）の NIM の減少（リソース費用の増加に関連。マクロヘッジの影響により一部緩和）は、資産構成の違いにより、国際リテール・バンキング部門（IRB）の純金利マージンの増加により十分に相殺されました。

基礎的な営業費用は、2022 年第 3 四半期と比べて 8.3%増（2 億 5,800 万ユーロ増）の 33 億 7,600 万ユーロとなりました。これには、専門金融サービス部門における CA オートバンクの連結、および資産運用サービス部門における RBC IS Europe の事業に関連する連結範囲の変更の影響マイナス 1 億 7,800 万ユーロ³⁵が含まれます。残りの主な要因は、給与の増加が 9,300 万ユーロ（主に法人営業及び投資銀行部門、イタリアのリテール・バンキング部門、LCL）、変動報酬と賞与の引当金が 5,800 万ユーロ（主に法人営業及び投資銀行部門）、IT 投資が 2,600 万ユーロ（主に大口顧客）です。費用は、前年比で+4,300 万ユーロの税効果の恩恵を受けました。

その結果、2023 年第 3 四半期の **SRF を除いた基礎コスト比率**は、2022 年第 3 四半期と比べて 2.6 ポイント改善し、55.7%となりました。

基礎営業総利益は 20.6%増加して 26 億 8,400 万ユーロとなりました。

2023 年 9 月 30 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さを裏付けています**。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 27%）と法人向け（クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 42%）に重点が置かれています。不良債権比率は前期比+0.1%ポイントと小幅上昇して 2.7%となり、低水準で推移しました。当四半期の不良債権引当率³⁶は前期比で-0.7 ポイントの小幅な低下となり、70.7%と高水準にとどまりました。クレディ・アグリコル S.A.の**貸倒引当金**は 98 億ユーロで、2023 年 6 月末と比べて 1.2%増加しました。この貸倒引当金のうち、35%は正常債権に対する引当です。正常債権に対する貸倒引当金は、2019 年第 4 四半期と比較して 14 億ユーロ増加しています。

基礎信用リスク関連費用は 4 億 2,900 万ユーロに減少し、2022 年第 3 四半期の 3 億 6,000 万ユーロと比べると 19.3%の増加となりました。2023 年第 3 四半期の費用 4 億 2,900 万ユーロの内訳は、正常債権の戻し入れ（ステージ 1 及び 2）が 5,900 万ユーロ（一部の貸付の債務不履行への移行に起因。2022 年第 3 四半期は 4,200 万ユーロの追加）、確認済みリスクの引当金が 4 億 8,700 万ユーロ（ステージ 3。2022 年第 3 四半期には 3 億 7,700 万ユーロ。悪化の要因は、リテール・バンキングと消費者クレジットの確認済みリスクの増加）、最後にその他のリスクに関する追加が 100 万ユーロでした。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに調整を加えることによって決定されました。第 2 四半期の加重経済シナリオは更新され、楽観的なシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2023 年に+1%、2024 年に+2.4%）と楽観的でないシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2023 年に+0.1%、2024 年は-0.1%）が含まれています。ローリング 4 四半期ベースでの残高に対するリスク関連費用³⁷は 33 ベーシス・ポイントであり、**中期計画の想定である 40 ベーシス・ポイント**および年換算の四

³⁰ CA オートバンクの収益への影響: 2 億 200 万ユーロ増

³¹ RBC IS 欧州の収益への影響: 1 億 350 万ユーロ増

³² 住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ 5,200 万ユーロを考慮すると 5.9%増

³³ 現在の為替レートでの変動。為替変動の影響を除くと 45%増

³⁴ 基礎データに基づき、特殊要因を除く。連結範囲: コーポレートセンターと保険事業を除く CA S.A.

³⁵ 連結範囲の変更の影響: SFS/CAAB (7,300 万ユーロ増)、資産運用サービス/RBC IS Europe (1 億 560 万ユーロ増)

³⁶ ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率。

³⁷ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

半期ベースの 33 ベーシス・ポイントと一致しています³⁸。

持分法適用会社の基礎的寄与は 5,000 万ユーロ(2022 年第 3 四半期と比べて 51.2%減)、**他の資産に関する純利益**は 800 万ユーロ(2022 年第 3 四半期と比べて 300 万ユーロ増)となりました。これら 2 つの損益計算書区分の変更は、SFS 部門における CA オートバンク(旧 FCA Bank)の連結範囲変更の影響によるものです。

税引前基礎利益は 23 億 1,200 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 17.2%増加しました。

基礎的実効税率は 24%、基礎的税金費用は 5 億 4,400 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて安定的に推移しました。**非継続事業または売却目的保有事業からの純利益**は、2022 年第 3 四半期から 2,000 万ユーロ減少し、200 万ユーロとなりました。

非支配持分控除前の基礎純利益は 21.6%増加して 17 億 7,000 万ユーロとなりました。**非支配持分**は 2 億 5,000 万ユーロとなり、前年比で 13.9%増加しました。

基礎純利益グループ帰属分は、2022 年第 3 四半期と比べて 23.0%増の 15 億 2,000 万ユーロでした。

2023 年第 3 四半期の **1 株当たり基礎的利益(IFRS 第 17 号見積もりベース)**は、2022 年第 3 四半期と比べて 19.5%増加し、0.46 ユーロになりました。

³⁸ 年換算の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

クレディ・アグリコル S.A. — 表示実績と基礎的実績 (2023 年 9 ヶ月累計期間と 2022 年 9 ヶ月累計期間)

m€	9M-23 stated	9M-22 stated	Δ 9M/9M stated	9M-23 underlying	9M-22 underlying	Δ 9M/9M underlying	9M-23 stated	9M-22 stated
Revenues	19,140	16,525	+15.8%	18,542	16,394	+13.1%	19,140	16,525
Operating expenses excl. SRF	(9,922)	(9,383)	+5.8%	(9,904)	(9,293)	+6.6%	(9,922)	(9,383)
SRF	(509)	(647)	(21.3%)	(509)	(647)	(21.3%)	(509)	(647)
Gross operating income	8,709	6,495	+34.1%	8,129	6,454	+25.9%	8,709	6,495
Cost of risk	(1,338)	(1,303)	+2.7%	(1,253)	(1,108)	+13.1%	(1,338)	(1,303)
Equity-accounted entities	136	291	(53.1%)	175	291	(39.9%)	136	291
Net income on other assets	102	26	x 3.9	13	26	(48.7%)	102	26
Change in value of goodwill	-	-	n.m.	-	-	n.m.	-	-
Income before tax	7,609	5,509	+38.1%	7,064	5,663	+24.7%	7,609	5,509
Tax	(1,832)	(1,483)	+23.5%	(1,682)	(1,473)	+14.2%	(1,832)	(1,483)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	7	147	n.m.	7	53	n.m.	7	147
Net income	5,785	4,174	+38.6%	5,389	4,244	+27.0%	5,785	4,174
Non controlling interests	(771)	(651)	+18.5%	(769)	(664)	+15.8%	(771)	(651)
Net income Group Share	5,014	3,523	+42.3%	4,620	3,580	+29.1%	5,014	3,523
Earnings per share (€)	1.53	1.08	+41.7%	1.40	1.10	+27.4%	1.53	1.08
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	51.8%	56.8%	-4.9 pp	53.4%	56.7%	-3.3 pp	51.8%	56.8%

2023 年 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 42.3%増の 50 億 1,400 万ユーロでした。

2023 年 9 ヶ月累計期間の特殊要因は表示純利益グループ帰属分に 3 億 9,400 万ユーロのプラスの影響を与え、その内訳は経常的な会計項目が 1 億 7,400 万ユーロ、非経常的項目が 2 億 2,000 万ユーロでした。経常項目は主に、前述の住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ (2 億 800 万ユーロ) と大口顧客部門の会計変動項目 (1,500 万ユーロ減の DVA と 1,900 万ユーロ減のローンブックのヘッジ) に対応しています。非経常的項目は、専門金融サービス部門のモビリティ事業の再編成 (1 億 5,900 万ユーロ)³⁹と、小切手画像処理に関する罰金引当金の戻し入れ (6,200 万ユーロ) に関連しています。

特殊要因を除いた基礎純利益グループ帰属分は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 29.1%増の 46 億 2,000 万ユーロでした⁴⁰。

2023 年 9 ヶ月累計期間の 1 株当たり基礎的利益は 1.4 ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べて 27.4%増加しました。

基礎 RoTE⁴¹は、基礎純利益グループ帰属分の年換算額⁴²及び線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づいて算出されており、年換算後のその他ティア 1 債券のクーポンを控除して算出され (無形資産を除いたグループ帰属株主資本利益率)、資本で認識されている特定の変動の大きい項目について修正再表示され (含み損益を含む)、2023 年 9 ヶ月累計期間には 13.5%となり、2022 年 9 ヶ月累計期間 (12.5%) に比べ 1 ポイント上昇しました。

基礎収益は、すべての事業部門が原動力となり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 13.1%増加しました。SRF を除く基礎営業費用は 6.6%増と限定的な増加となりました。SRF を除いたコスト比率は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 3.3 ポイント改善され、53.4%となりました。同期間の SRF は 5 億 900 万ユーロで、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 21.3%減少しました。基礎営業総利益は 81 億 2,900 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 25.9%増加しました。同期間にリスク関連費用は 13.1%増加し、12 億 5,300 万ユーロとなりました (2022 年 9 ヶ月累計期

³⁹ CACF グループのモビリティ事業の再編成に関連して、2023 年第 2 四半期に 1 億 4,000 万ユーロの非経常的な影響があったのに続き、2023 年第 3 四半期には 1,900 万ユーロが追加されました。なお、これには、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク (旧 FCA バンク) の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編 (特にアプリケーション・ソリューションの見直し) が含まれました。

⁴⁰ 特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

⁴¹ 各事業部門の RoTE (有形株主資本利益率) 及び RoNE (調整株主資本利益率) の計算の詳細を参照のこと。

⁴² 年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算 (第 1 四半期 x 4、上半期 x 2、9 ヶ月累計期間 x 4/3) したものに相当します。

間には 11 億 800 万ユーロ)。最後に、2023 年第 2 四半期以降の CA オートバンクの完全連結により、持分法適用会社の収益は 39.9%減少しました。

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2023 年第 3 四半期のアセット・ギャザリング(AG)部門の運用資産は、2023 年 6 月末と比べて 0.4%増加し、2 兆 4,920 億ユーロとなりました。当四半期は市場効果がマイナスとなった(31 億ユーロ減)中、純流入が原動力となりました。同部門の当四半期の純流入額は、アムンディが 137 億ユーロの純流入となったことで、130 億ユーロのプラスとなりました。一方、貯蓄/退職金の純流入額は 13 億ユーロのマイナスとなりました。年間では、プラスの市場効果もあり、前年比で 198 億ユーロの資金流入があったことに加え、ユニット・リンク型商品への資金流入が好調だったことから、運用資産は 3.7%増加しました。二重計上を除く 2023 年 9 月 30 日時点の運用資産は 2 兆 2,240 億ユーロで、2022 年 9 月 30 日に比べて 4.7%増加しました。

保険事業(クレディ・アグリコル・アシュアランス)は、第 3 四半期の保険料収入が 70 億ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 2.5%減少しました。損害保険および死亡・高度障害保険/債権者保険/団体保険の保険料収入は増加しましたが、貯蓄/退職保険の保険料収入の減少を相殺しきれませんでした。2023 年 9 ヶ月累計期間の保険料収入は 277 億ユーロとなり、連結範囲を一定にした場合(La Médicale を除く)、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 3.4%増加しました。

貯蓄/退職金保険では、2023 年 9 月末時点で保険料収入は 194 億ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間から 1.4%増加しました。当四半期の総流入額は 46 億ユーロとなり(2022 年第 3 四半期と比べて 8.0%減)、ユニット・リンク型商品の構成比は 2022 年第 3 四半期と比べて 2.5 ポイント上昇し、40.3%となりました。当四半期の純流入額は 13 億ユーロのマイナスとなりました。ユニット・リンク型商品によるプラスの純流入(4 億ユーロ)は、ユーロ建てファンドの純流出(17 億ユーロ)を相殺しきれませんでした。

資産残高(貯蓄、退職保険、死亡・高度障害保険)は 3,243 億ユーロとなり、前年比で 62 億ユーロ増加(2.0%増)しました。ユニット・リンク型商品の販売が順調で、金融市場が好調に推移したことから、総資産に占めるユニット・リンク型商品の割合は 27.6%となり、前年同期比で 2.8 ポイント上昇しました。

損害保険事業は活発であり、2023 年第 3 四半期の保険料収入は 11 億ユーロと、2022 年第 3 四半期と比べて 8.9%増加しました。2023 年 9 月末時点で、損害保険契約ポートフォリオの件数は約 1,580 万件となり⁴³、前年比で 3.6%増となりました。クレディ・アグリコル・グループの銀行ネットワークにおける個人顧客のクロスセルは、すべてのネットワークで 2022 年 9 月末と比べて増加し、地域銀行では 43.1%(0.5 ポイント上昇)、LCL では 27.6%(0.5 ポイント上昇)、CA イタリア(Creval の顧客基盤を含む)では 18.3%(2.2 ポイント上昇)となりました。2022 年第 3 四半期には天候関連の保険金請求の影響が大きかったため、コンバインドレシオは 95.2%⁴⁴となり、前年同期比で 5.0 ポイント改善しました。

死亡・高度障害、債権者及び団体保険では、2023 年第 3 四半期の保険料収入は、2022 年第 3 四半期から 10.9%増加して 13 億ユーロとなりました。死亡・高度障害保険(21.8%増)と団体保険の保険料収入の大幅な伸びが原動力となりました。債権者保険の保険料収入は、2022 年第 3 四半期から 2023 年第 3 四半期の間に 7.5%増加しました。この原動力となったのは、国際的な一時払い保険(特にイタリア)および地域銀行/LCL の支援レートの上昇でした。

⁴³ 連結範囲: フランス内外の損害保険

⁴⁴ 割引を含め、逆割引を除いた P&C (Pacifica) のコンバインドレシオは、(保険金+営業費用+手数料収入/再保険料控除後の保険料。割引と逆割引の影響を除いたコンバインドレシオは 98.1%)。

第 3 四半期はリスク回避の動きが目立ち、欧州の資産運用市場のフローは低調に推移しました⁴⁵。こうした中でも、**資産運用(アムンディ)**は、リテール向けと機関向けの両方で、特にトレジャリー商品と債券商品、パッシブ運用、アジア向けで好調な純流入を達成しました。

運用資産は 2023 年 9 月 30 日時点で 1 兆 9,730 億ユーロに達し、2023 年 6 月 30 日時点と比べて 0.6%増加しました。前年比では、2022 年 9 月 30 日と比べて残高は 4.1%増加しました。

顧客区分別では、**リテール部門**が 20 億ユーロのプラスの流入となり、前四半期と同様にリスク回避レベルの高さが特徴となりました。これは、トレジャリー商品への資金流入が高水準だったこと(27 億ユーロ増)と、逆に中長期資産の資金流出が低水準だったこと(7 億ユーロ減)⁴⁶を反映しており、顧客の種類別の内訳は以下の通りです。

- **第三者ディストリビューター**(21 億ユーロ増)では、ETF・インデックスファンドおよびトレジャリー商品が好調でした。
- **アムンディ・バンク・オブ・チャイナ WM**(3 億ユーロ増)を除く**パートナーネットワーク**では、ストラクチャード商品と Buy&Watch 債券ファンドの成功を引き続き活用し、トレジャリー商品への関心が再び高まりました。
- **中国のアムンディ・バンク・オブ・チャイナ WM**は、新ファンドの募集の増額が確定したものの、当四半期のファンドの満期分を相殺できなかったため、純流出(5 億ユーロ減)となりました。

機関投資家向けセグメントは 93 億ユーロの増加と**大幅な資金流入**を達成し、特に中長期資産への流入⁴⁶(85 億ユーロ増)が好調に推移しました。これには、株式インデックスソリューションと債券ソリューションという低利率の大規模な機関投資家向けマンドートが含まれます。一方、CA&SG 保険会社では、前四半期と同様に、顧客による従来型の生命保険契約の解約に伴う償還(31 億ユーロ減)が続きました。過去数カ月に株価が大幅に上昇した発行体の従業員が従業員持株ファンドを売却したことから、従業員向け及び退職貯蓄事業での利益確定(9 億ユーロの純流出)も目立ちました。

最後に、**ジョイントベンチャー**⁴⁷の資金流入は、24 億ユーロの増加になりました。インドのジョイントベンチャーSBI MF の継続的な発展(20 億ユーロ増。そのうち中長期資産が 34 億ユーロ増⁴⁶)、中国のジョイントベンチャーABC-CA の安定化(全体としては収支均衡だが、3 億ユーロの資金流入。チャネル事業活動に関する資産売却計画。利益率が低く段階的に縮小中)によるものであり、その他のジョイントベンチャーもプラスの純流入(4 億ユーロ増)となりました。

ウェルス・マネジメントでは⁴⁸、運用資産合計(CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング)は 2023 年 9 月末現在で 1,945 億ユーロ(うち 1,330 億ユーロはインドスエズ・ウェルス・マネジメント)となりました。プラスの純流入額がマイナスの市場効果により相殺されたため、2023 年 6 月末から横ばいで推移しました。

アセット・ギャザリング部門の業績

2023 年の保険事業ラインのデータ、ひいては資産運用・貯蓄事業ラインのデータは、2022 年の見積もりベースの IFRS 第 17 号のデータと比較されます。

2023 年第 3 四半期には、アセット・ギャザリング部門の**収益**は 16 億 5,600 万ユーロと、2022 年第 3 四半期と比べて 10.2%増加し、保険、資産運用、ウェルス・マネジメントのすべての事業ラインで非常に高水準の収益をあげました。SRF を除いた費用は 0.8%増と安定して推移しました。その結果、SRF を除いたコスト比率は、2022 年第 3 四半期と比べて 4.1 ポイント低下し、43.4%となりました。営業総利益は 2022 年第 3 四半期と比べて 18.8%増の 9 億 3,700 万ユーロとなりました。税金は 4.5%増加して 2 億 2,100 万ユーロとなりました。アセット・ギャザリング部門の**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 2.3%増の 6 億 2,100 万ユーロとなりました(2022 年第 3 四半期に計上された La Médicale の売却益 1 億 100 万ユーロを除くと 22.8%増)。純利益グループ帰属分は、2022 年第 3 四半期から 2023 年第 3 四半期の間に、資産運用(5.2%増)、保険(連結の範囲を一定にした場合は 0.6%増、2022 年第 3 四半期に計上された La Médicale の売却益を除くと 34.0%増)、ウェルスマネジメント(10.3%増)という同部門の全事業ラインで増加しました。

⁴⁵ 出典: Morningstar FundFile、ETFGI。欧州および国際的なオープンエンド型ファンド(マンドートおよび専用ファンドを除く)。データは 2023 年 9 月末時点。

⁴⁶ 中長期資産

⁴⁷ 純流入額には、アドバイスを提供した資産、売却資産、ファンド・オブ・ファンズが含まれ、アジアのジョイント・ベンチャーの純流入額の 100%が考慮されています。モロッコの Wafa Gestion の純流入額は、同社の資本におけるアムンディの持ち分を反映しています。

⁴⁸ LCL プライベート・バンキング及びインドスエズ・ウェルス・マネジメント

アセット・ギャザリング部門では、すべての事業ラインがプラスの寄与の原動力となり、**2023 年 9 ヶ月累計期間の収益**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 20.9%増の 51 億 3,300 万ユーロとなりました。SRF を除いた費用は 0.5%増と安定して推移しました。その結果、SRF を除いたコスト比率は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 8.5 ポイント低下し、41.8%となりました。営業総利益は 29 億 7,900 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 41.9%増加しました。税金は 30.1%増加して 6 億 9,900 万ユーロとなりました。アセット・ギャザリング部門の**純利益グループ帰属分**は、アセット・マネジメント(10.3%増)、保険(57.7%増)、ウェルス・マネジメント(43.0%増)の全事業ラインで、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 39.8%増の 19 億 9,600 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間には、アセット・ギャザリング部門は、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 38%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 27%に寄与しました。

2023 年 9 月 30 日現在で同部門に配分された自己資本は 129 億ユーロで、この内訳は、保険が 111 億ユーロ、資産運用が 13 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 5 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 507 億ユーロで、この内訳は、保険が 318 億ユーロ、資産運用が 132 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 58 億ユーロでした。

2023 年 9 月 30 日時点で、**基礎 RoNE**(調整株主資本利益率)は 24.2%になりました。

保険事業の業績

2023 年第 3 四半期の**保険収入**は 6 億 4,300 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期(IFRS 第 17 号見積もりベース)から 19.4%増加しました。

当四半期の収益の主な内訳は、貯蓄・退職金保険(3 億 9,800 万ユーロ)⁴⁹、個人保障(1 億 3,600 万ユーロ)⁵⁰、損害保険(7,200 万ユーロ)でした⁵¹。

営業総利益は 5 億 6,200 万ユーロ、税金は 1 億 3,100 万ユーロでした。その結果、**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 0.6%増の 4 億 1,100 万ユーロとなりました。2022 年第 3 四半期に計上された La Médicale の売却益 1 億 100 万ユーロを除くと、**純利益グループ帰属分**は 34%増でした。

2023 年 9 月 30 日時点の契約上のサービスマージン(CSM)は 232 億ユーロで、2022 年 12 月 31 日から 6.5%増加しました。当四半期には、金利上昇および貯蓄/退職金保険の組成の減速に伴い、CSM は小幅な減少となりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の保険事業の収益は 20 億 2,200 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 56.9%増加、IFRS 第 17 号⁵²ランレートでは 17.5%増加しました。この増加は主に、2022 年のベース効果(2022 年末に実施された投資管理の決定、すなわち株式の分離とポートフォリオの感度低減は IFRS 第 17 号の見積もりベースでは考慮されていない)、2022 年中の相場下落、2022 年第 2 四半期の気象関連の高水準の保険金請求によるものです。営業総利益は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 68.5%増加しました。最後に、2023 年 9 ヶ月累計期間の税金費用は 42.0%増加しました。全体として、**純利益グループ帰属分**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 57.7%増の 13 億 1,800 万ユーロでした。

保険は、2023 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 25%に寄与し、また基礎収益の 11%に寄与しました。

⁴⁹ CSM と RA の配分額(葬儀保証を含む)

⁵⁰ CSM と RA の配分額

⁵¹ 再保険費用控除後(業績を除く)

⁵² IFRS 第 17 号のランレート: すなわち、2022 年末に実施された投資管理上の決定(株式の分離とポートフォリオの感度低減)を考慮していない 2022 年ベース効果の修正再表示後。

資産運用の業績

2023 年第 3 四半期の収益は 7 億 6,000 万ユーロで、2022 年第 3 四半期に比べて 3.0%増加しました。これは、低水準の成功報酬にもかかわらず、手数料収入が大きく回復し、業績が黒字化したことによるものです。SRF を除く営業費用は 4 億 3,300 万ユーロと十分に抑えられ、2022 年第 3 四半期と比べて安定的に推移しました。その結果、**SRF を除くコスト比率**は 57.0%となりました。**営業総利益**は 2022 年第 3 四半期と比べて 7.0%増加しました。アムンディのジョイント・ベンチャーからの貢献で構成される持分法適用会社の寄与は、2022 年第 3 四半期から 2.0%増加して 2,400 万ユーロとなり、税金費用は 7.5%増の 8,000 万ユーロとなりました。最後に、**純利益グループ帰属分**は、5.2%増の 1 億 7,800 万ユーロでした。

2023 年 9 ヶ月累計期間の収益は、資産運用部門で 2.2%増加し、四半期ベースと同様に純金融収入とその他の収入(4,900 万ユーロ。2022 年 9 ヶ月累計期間には 4,000 万ユーロ)、ならびにアムンディ・テクノロジーの収益(25.8%増の 4,200 万ユーロ)が牽引しました。純運用手数料は 1.3%減となりましたが、良好な顧客構成により利益率が回復したことを反映し、ジョイントベンチャーを除く平均運用資産の減少(1.9%減)と比べると小幅な減少にとどまりました。ただし、リスク資産への慎重な投資方針を反映して、成功報酬は 17.2%減(1 億 800 万ユーロから 8,900 万ユーロに減少)となりました。

2022 年 9 ヶ月累計期間に計上された Lyxor の統合費用(税引前 5,900 万ユーロ)の影響を除くと、SRF を除く営業費用は 1.6%増加しました。**SRF を除いたコスト比率**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 2.9 ポイント低下し、55.8%となりました。その結果、**営業総利益**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.6%増加しました。持分法適用会社の当期純利益は 13.9%増加しました。全体として、**純利益グループ帰属分**は、10.3%増加して 5 億 6,600 万ユーロとなりました。

資産運用は、2023 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 11%に寄与し、基礎収益の 12%に寄与しました。

ウェルス・マネジメントの業績⁵³

ウェルス・マネジメントの 2023 年第 3 四半期の**収益**は、金利上昇を受けて 2022 年第 3 四半期から 12.1%増加し、2 億 5,300 万ユーロとなりました。金利上昇が金利マージンにプラスの影響を及ぼし、2022 年第 3 四半期から 2023 年第 3 四半期の間に金利マージンは 33%増加しました。**SRF を除くコスト**は、主に人件費の増加の影響により、2 億 400 万ユーロ(7.1%増)となりました。**コスト比率**は 3 ヶ月で 3.8 ポイント低下し、80.5%となりました。SRF を除く営業総利益は、38.9%増加して 4,900 万ユーロとなりました。**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 10.3%増の 3,200 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間には、ウェルス・マネジメントの**収益**は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 15.5%急増し、7 億 7,600 万ユーロに達しました。SRF を除いた費用は 7.1%増加しました。この結果、**営業総利益**は 63.2%増加して 1 億 6,500 万ユーロとなりました。従って、2023 年 9 ヶ月累計期間の**純利益グループ帰属分**は、43.0%増の 1 億 1,200 万ユーロとなりました。

ウェルス・マネジメントは、2023 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門の基礎純利益グループ帰属分(コーポレート・センター部門を除く)の 2%に寄与し、基礎収益の 4%に寄与しました。

⁵³ インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲

大口顧客部門の活動

2023 年第 3 四半期には、**法人営業及び投資銀行部門(CIB)**は勢いが強まり、**資産運用サービス部門**では RBC IS Europe の統合が特徴的となりました。

法人営業及び投資銀行部門(CIB)による**基礎収益**⁵⁴は 2022 年第 3 四半期と比べて 9.2%増の 14 億 1,500 万ユーロとなりました。この増加は、**資本市場及び投資銀行業務**によるもので、基礎収益は 2022 年第 3 四半期と比べて 26.8%増の 6 億 6,000 万ユーロとなりました。金利上昇を背景に、特にストラクチャード商品と証券化が非常に好調に推移し、債券・為替・コモディティが高いリターンをあげたこと(期間中に 25.6%増)が寄与しました。投資銀行部門では、第 3 四半期は M&A 市場が低調でしたが、ストラクチャード・エクイティが好調だったことで相殺されました。**ファイナンス事業**による基礎収益は 2022 年第 3 四半期比で 2.7%減の 7 億 5,500 万ユーロとなりました。プロジェクト・ファイナンスやインフラ・ファイナンスをはじめ、ストラクチャード・ファイナンスが好調に推移し(2022 年第 3 四半期比で 2.4%増)、国際貿易・取引銀行業務は現金管理を支えに持ち直したにもかかわらず、法人向け及びレバレッジ・ファイナンス業務における商業向けバンキングの落ち込み(2022 年第 3 四半期比で 5.3%減)は相殺されませんでした。

法人営業及び投資銀行部門は、シンジケートローン(フランスで第 1 位⁵⁵、EMEA で第 2 位⁵⁵)および債券発行(ユーロ建ての世界の債券で第 2 位⁵⁵、ユーロ建てグリーン・社会・持続可能性債で第 2 位⁵⁶)で**主導的地位**を占めました。2023 年第 3 四半期の規制上の VaR の平均は 1,560 万ユーロで、ポジションと金融市場の変動を反映して、2023 年第 2 四半期の 1,790 万ユーロから減少しました。**慎重なリスク管理**を反映した水準で推移しました。

資産運用サービス(CACEIS)では、2023 年 7 月 3 日に RBC Investor Services Europe の事業の買収が完了したことを受け、その連結が特徴となりました。CACEIS と BNP パリバの発行体サービス部門を統合した 50/50 のジョイント・ベンチャーである Uptevia は⁵⁷、2023 年第 1 四半期から持分法適用会社となっています。

2023 年第 3 四半期の**カストディー資産および管理資産**は、当四半期中のマイナスの市場効果にもかかわらず、ISB の資産の連結⁵⁸と商業向けの勢いにより、2023 年第 2 四半期と比べてそれぞれ 5.7%増、42.7%増となりました。**カストディー資産**は、2023 年 9 月末で 4 兆 5,150 億ユーロとなり、2022 年 9 月末に比べて 13.6%増加しました。**資産管理**は、2023 年 9 月末では前年同期比 54.3%増加の 3 兆 2,510 億ユーロとなりました。さらに、2023 年第 3 四半期の**精算・受け渡し金額**は、2022 年第 3 四半期と比べて 34%増加(ISB を除く)しました。

大口顧客部門の業績

2023 年第 3 四半期の大口顧客部門の収益は 18 億 8,800 万ユーロに達し、2022 年第 3 四半期と比べて 17.4%増と大幅な増加となりました。これは、資産運用サービスにおける ISB の連結の効果^{58, 59}ならびに資本市場及び投資銀行業務による法人営業及び投資銀行部門の非常に好調な業績によるものです。**SRF を除く営業費用**は 2022 年第 3 四半期と比べて 16.5%増加しました。これは、ISB の連結の影響^{58, 59}に加え、事業ラインの発展を支える人件費と IT 投資の増加によるものです。その結果、同部門の**営業総利益**は 7 億 4,800 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて急増しました。同部門の**リスク関連費用**の引当金は、2023 年第 3 四半期には全体で 1,300 万ユーロの純増となりました。これに対し、2022 年第 3 四半期には 3,400 万ユーロの増加でした。これには、ウクライナ戦争関連の引当金の戻し入れ 200 万ユーロが含まれ、そのうち 8,800 万ユーロが正常債権に関する戻し入れでした。当四半期には**税引前利益**は 22.8%増と大幅に増加し、7 億 3,900 万ユーロに達しました。税金費用は 2 億 300 万ユーロとなりました。最後に、2023 年第 3 四半期の**純利益グループ帰属分**は 4 億 8,800 万ユーロになりました。これに対し、2022 年第 3 四半期の利益は 4 億 1,200 万ユーロでした。

⁵⁴ CIB の当四半期の特殊要因は、ファイナンス事業に 60 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA (FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資)が 210 万ユーロ増、ローンブックのヘッジに係る損失が 150 万ユーロ減でした。

⁵⁵ リフィニティブ

⁵⁶ ブルームバーク

⁵⁷ フランスの発行体に提供される、事業登録簿の管理、総会の開催その他のサービス

⁵⁸ 欧州の RBC インベスター・サービスは CACEIS インベスター・サービス・バンク (ISB) となり、2023 年第 3 四半期から統合されています。ただし、今後数四半期に閉鎖が予定されているジャージーおよび英国の事業体は含まれていません。

⁵⁹ ISB の連結が 2023 年第 3 四半期の業績に及ぼした影響: 収益 1 億 350 万ユーロ増、費用 1 億 570 万ユーロ減、純利益グループ帰属分 110 万ユーロ減。

2023 年 9 ヶ月累計期間の大口顧客部門の収益は 58 億 4,400 万ユーロ(2022 年 9 ヶ月累計期間に比べて 10.3% 増加)となりました。**SRF を除く営業費用**は、主に人件費と IT 投資、および ISB の連結の影響により、2022 年 9 ヶ月累計期間から 13.5%増加し、32 億 9,800 万ユーロとなりました^{58,59}。**SRF 費用**は、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 29.4%減と急減しました。2023 年 9 ヶ月累計期間の**営業総利益**は 22 億 3,400 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 14.3%増加しました。**リスク関連費用**は、2022 年 9 ヶ月累計期間の 2 億 3,600 万ユーロの純引当金と比べて、2023 年 9 ヶ月累計期間には 8,100 万ユーロの純引当金となりました。2022 年第 1 四半期の正常債権に対する引当金に関しては、主にロシア・ウクライナ戦争の影響及びその結果が含まれました。当部門の**純利益グループ帰属分**への寄与は 14 億 8,600 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べ 22.7%増と大幅増加しました。

同部門は、2023 年 9 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の**基礎純利益グループ帰属分**の 29%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 31%に寄与しています。

2023 年 9 月 30 日現在、当部門に**配分された資本**は合計 132 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 1,388 億ユーロでした。

2023 年 9 月末時点で、基礎 **RoNE**(調整株主資本利益率)は 15.1%になりました。

法人営業及び投資銀行部門の業績

2023 年第 3 四半期の法人営業及び投資銀行部門の収益は、資本市場及び投資銀行業務がけん引し、2022 年第 3 四半期と比べて 9.2%増の 14 億 1,500 万ユーロとなりました。**SRF を除く営業費用**は 5.6%増加し、8 億 600 万ユーロとなりました。これは主に事業ラインを支える人的資源や IT 投資、活動の成果に応じた変動報酬の調整に関連するものです。**営業総利益**は 2022 年第 3 四半期と比べて 14.5%増と大幅に増加し、6 億 900 万ユーロとなりました。SRF を除いたコスト比率は 2.0 ポイント低下と改善し、57.0%となりました。**リスク関連費用**は、2022 年第 3 四半期に 3,200 万ユーロ増加したのと比べ、1,400 万ユーロの緩やかな純増となりました。最後に、2023 年第 3 四半期の**税引前利益**は 5 億 9,600 万ユーロとなりました(2022 年第 3 四半期は 5 億 100 万ユーロ)。税金費用は 1 億 8,100 万ユーロとなりました。全体で、2023 年第 3 四半期の**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 13.0%急増し、4 億 500 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の収益は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 6.3%増の 46 億 4,100 万ユーロとなり、9 ヶ月累計期間ベースで過去最高に達しました。**SRF を除く費用**は、人件費、変動報酬の持続的な調整、ならびに事業ラインの発展を支援する IT 費用を主因として 11.3%増加しました。**SRF への拠出額**は、2023 年 9 ヶ月累計期間には 29.5%減の 2 億 7,100 万ユーロと、大幅に減少しました。よって、**営業総利益**は 18 億 7,400 万ユーロとなり、大幅に増加しました(2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 7.9%増)。**リスク関連費用**は、2023 年 9 ヶ月累計期間には 8,000 万ユーロの引当金となりました。これは、2022 年 9 ヶ月累計期間には、ロシアのリスクに関する保守的な引当金を含め、2 億 3,600 万ユーロ(2022 年第 1 四半期にロシアの正常債権に対する引当金が 3 億 4,600 万ユーロ)でした。税金費用は活動の増加に伴い、25.3%増の 4 億 7,900 万ユーロとなりました。全体として、2023 年 9 ヶ月累計期間の**純利益グループ帰属分**は同期間中に 17.6%増加し、過去最高の 12 億 8,400 万ユーロとなりました。

2023 年 9 月末のリスク・ウェイト資産は 1,281 億ユーロとなり、2022 年 12 月末と比べると 21 億ユーロの減少、2023 年 6 月末と比べると 21 億ユーロの増加となりました。緩やかな増加となったのは、シンセティック証券化の償却と為替変動のマイナス影響によるものです。

資産管理サービスの業績

2023 年第 3 四半期の資産管理サービスの収益は 4 億 7,200 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期に比べ 51.5% 増と大幅に増加しました。この増加は、主に ISB の統合の影響^{60、61}によるものであり、純金利マージン(当期間中 67.3%増)と手数料収入(同 41.4%増)が原動力となりました。SRF を除く営業費用は 55.8%増加して 3 億 3,300 万ユーロとなりました。また、ISB の統合の影響^{60、61}も反映しており、ISB の買収に関連する連結コストには 500 万ユーロが計上されています。その結果、2023 年第 3 四半期の営業総利益は 1 億 3,900 万ユーロとなり、大幅に増加(42.2%増)しました。従って、SRF を除いたコスト比率は、2022 年第 3 四半期と比べて 0.9 ポイント悪化し、70.6% (ISB の統合費用を除くと 69.5%)となりました。また、当四半期には持分法適用会社からの所得 500 万ユーロも計上しました。後者の数字には、2023 年第 1 四半期以降の Uptevia の寄与が含まれます。純利益は 1 億 2,200 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 54.1%増加しました。非支配持分 3,800 万ユーロの調整後では、同部門の純利益グループ帰属分への寄与は、2023 年第 3 四半期には 8,300 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 55.1%増加しました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の収益は、ISB の連結^{60、61}商業向け的好調な勢い、純金利収入(期間中に 91.1%増)により、2022 年 9 カ月累計期間と比べて 28.4%増加しました。SRF を除く費用は 21.3%増加しました。これには ISB^{60、61} の買収に関する連結コスト 1,450 万ユーロが含まれました。SRF 費用は 28.3%減と急減しました。これを受けて、営業総利益は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 64.9%増と、大幅増加しました。その結果、純利益は 67.5%増加しました。2023 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分に対する当事業部門の全体的な貢献は 2 億 200 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 69.1%増加しました。

ISB の完全連結⁶⁰は 2025 年末までに予定されており、2024 年には顧客の移行と事業体の法的合併が予定されています。2026 年の追加の純利益⁶²は 1 億ユーロを上回ると予想されます。

専門金融サービス部門の活動

2023 年第 3 四半期には、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンス(CACF)の商用組成は、顧客の選別性が高まったことを反映し、2022 年第 3 四半期に比べて 2.1%減の 116 億ユーロとなりました。一方、自動車チャネルの業績は引き続き好調でした⁶³(6.7%増)。累積期間では、2023 年 9 月末時点の組成は 2022 年 9 月末と比べて 7%増加し、そのうち 24%が自動車チャネルでした。2023 年 9 月末現在、CACF の残高総額は 1,110 億ユーロとなり、2022 年 9 月末に比べ 12.3%増加しました。CACF のモビリティ事業の再編および 2023 年 4 月初頭の Stellantis との契約締結を受けて、自動車関連の事業体の残高は 435 億ユーロとなり、そのうちクレディ・アグリコル・オートバンクが 268 億ユーロを占めました。Stellantis との 50/50 のジョイント・ベンチャーである Leasys は、100%で残高に 68 億ユーロ寄与しました。

以前お知らせした通り、消費者金融事業の主な動向には、CACF と Stellantis との間の契約の履行(2023 年 4 月始めに発効し、Stellantis との 50/50 のジョイント・ベンチャーである Leasys の設立が完了)、CA オートバンク(旧 FCA バンク)と Drivalia(レンタカーとカーシェアリング)の 100%買収などがあります。さらに、CACF は、2023 年 8 月初頭以降、欧州 6 カ国における ALD と LeasePlan の事業を買収しました。合計車両数は 10 万台以上(そのうち 3 万台は Leasys から取得、7 万台は CA Auto Bank から取得)、合計残高は約 19 億ユーロに相当します。

2023 年 9 月初めに、CACF は欧州全域でモビリティに特化したサービスを開発し、CA モビリティ・サービスブランドで販売することを発表しました。クレディ・アグリコル・モビリティ・サービスのサービス構成には、最終的に、保証、配送、車両シェアリング、保険、融資、電気自動車の充電、車両管理という 7 つのサービス事業が含まれる予定です。

⁶⁰ 欧州の RBC インベスター・サービスは CACEIS インベスター・サービス・バンク (ISB) となり、2023 年第 3 四半期から連結されています。ただし、今後数四半期にクロージングが予定されているジャージーおよび英国の事業体は含まれていません。

⁶¹ ISB の連結が 2023 年第 3 四半期の業績に及ぼした影響: 収益 1 億 350 万ユーロ増、費用 1 億 570 万ユーロ減、純利益グループ帰属分 110 万ユーロ減

⁶² 非支配持分控除前

⁶³ CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

クレディ・アグリコル・リーシング・アンド・ファクタリング (CAL&F) では、ドイツとフランスの好調な勢いにより、2023 年第 3 四半期の**ファクタリングの商用組成**が 2022 年第 3 四半期比で 2.6 倍と非常に高水準となりました。当四半期のファクタリング売上高は 2%増の 289 億ユーロとなり、特にフランスがけん引しました。最後に、第 3 四半期の融資割当枠も 70.4%に上昇しました (2022 年第 3 四半期から 4.7 ポイント上昇)。リース残高はすべての事業で増加して 2023 年 9 月末時点で 185 億ユーロに達し (このうち 149 億ユーロがフランス国内、36 億ユーロが国外)、2022 年 9 月末に比べ 8.9%増加しました。

専門金融サービス部門の業績

専門金融サービス部門の 2023 年第 3 四半期の**収益**は 8 億 8,300 万ユーロで、2022 年第 3 四半期と比べて 26.3%増加しました。当四半期中の ALD/LeasePlan の影響を含む CA オートバンクの完全連結による収益への寄与は、2 億 200 万ユーロでした。SRF を除く費用は、18.4%増の 4 億 2,400 万ユーロでした。ALD/LeasePlan の影響を含む CA オートバンクの完全連結による当四半期の費用への寄与は、7,300 万ユーロでした。その結果、**営業総利益**は 34.6%増加し、4 億 6,000 万ユーロとなりました。SRF を除いた**基礎コスト比率**も改善し、48%になりました (3.2 ポイント低下)。表示**リスク関連費用**は 2022 年第 3 四半期と比べて 48.1%増加し、2 億 2,400 万ユーロとなりました。ALD/LeasePlan の影響を含む CA オートバンクの完全連結による当四半期のリスク関連費用への寄与は、2,800 万ユーロでした。**持分法適用会社の純利益**は 93.8%減の 500 万ユーロでした。これには、前四半期に立ち上げられた 50/50 のジョイント・ベンチャーである Leasys (旧 FCA バンクが 50/50 のジョイント・ベンチャーとして会計処理された) の設立も含まれます。CACF のモビリティ事業の再編成に関連する 1 回限りの要因の 2,600 万ユーロを除くと⁶⁴、持分法適用会社の純利益は 3,200 万ユーロとなり、Leasys の設立による寄与は当四半期には 1,700 万ユーロとなりました。**その他資産からの純利益**は 5,700 万ユーロで、これには CACF のモビリティ事業の再編成に関する項目のみが含まれています⁶⁴。**純利益グループ帰属分**は同期間中、安定的に推移して 2 億 400 万ユーロとなりました。2023 年第 3 四半期の 1 回限りの項目を除くと⁶⁴、2022 年第 3 四半期と比べて 9.7%減の 1 億 8,500 万ユーロとなります。

2023 年 9 ヶ月累計期間の専門金融サービス部門の**収益**は 31.2%増の 27 億 1,700 万ユーロとなりました。この原動力となったのは、CAL&F の好調な業績 (2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.1%増)、2023 年第 2 四半期以降の CA オート・バンクの完全連結に伴う CACF の増収 (2022 年 9 ヶ月累計期間と比べ 37.7%増)、および 2023 年第 3 四半期の ALD/LeasePlan の事業の買収でした。2023 年 9 ヶ月累計期間の損益計算書のさまざまな項目は、2023 年第 2 四半期に始まった CA オートバンクの完全連結から影響を受けています。2023 年 9 ヶ月累計期間の**特殊要因**は、2023 年第 2 四半期と第 3 四半期に集中しています。従って、CACF のモビリティ事業の再編成のみに関連する上記の要因と同じです⁶⁴。これらの項目を除く**同部門の基礎収益**は 24 億 1,700 万ユーロで、同期間中に 16.7%の増加となりました。**SRF を除く基礎費用**は、2022 年 9 ヶ月累計期間に比べ 11.2%増加しました。SRF を除いた**基礎コスト比率**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 2.5 ポイント改善し、52.3%と低水準にとどまりました。**SRF の拠出額**は 2023 年 9 ヶ月累計期間には 2,900 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 15.7%減少しました。2023 年 9 ヶ月累計期間の**リスク関連費用**は前年同期比で 55.2%増加しました。持分法適用会社の寄与は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 46.5%減少しました。その結果、**純利益グループ帰属分**は、主に同期間中のリスク関連費用の増加により、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 16.3%減の 4 億 7,600 万ユーロとなりました。

当部門は、2023 年 9 ヶ月累計期間におけるクレディ・アグリコル S.A. の中核事業 (コーポレート・センター部門を除く) の**基礎純利益グループ帰属分**の 9%、コーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 13%に寄与しました。

⁶⁴ CA コンシューマー・ファイナンス・グループのモビリティ事業の再編は、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク (旧 FCA 銀行) の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編 (特にアプリケーション・ソリューションの見直し) により、2023 年第 2 四半期 (純利益グループ帰属分が 1 億 4,000 万ユーロ増) および第 3 四半期 (純利益グループ帰属分が 1,900 万ユーロ増) に、すべての中間営業業績の合計に非経常的な影響を及ぼしました。

2023 年 9 月 30 日現在、当部門に**配分された資本**は合計 65 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 681 億ユーロでした。

2023 年 9 月 30 日時点で、基礎 **RoNE**(調整株主資本利益率)は 9.8%になりました。

消費者金融の業績

2023 年第 3 四半期の同事業ラインの業績は、CACF と Stellantis との間の契約の執行と、2023 年 4 月 3 日から実施されている CACF のモビリティ事業の再編⁶⁴から好影響を受け、2023 年第 2 四半期と同程度となりました。**収益**は、CA オートバンクの連結の影響⁶⁵により、2022 年第 3 四半期比で 30.2%増の 7 億 700 万ユーロとなりました。利鞘は依然として借り換えコストと高利率により圧迫されていますが、当四半期中に回復しつつあります(顧客の組成レートは 2023 年第 2 四半期と比べて 31 ベーシス・ポイント上昇)。さらに、CACF のモビリティ事業の再編⁶⁴による 1 回限りの影響を除く収益は、特に 8 月以降の ALD/LeasePlan の事業の買収により、2023 年第 2 四半期比で 3.6%増となります。SRF を除いた**費用**は、主に CA オートバンクの連結を反映し⁶⁶、2022 年第 3 四半期と比べて 22.9%増の 3 億 3,000 万ユーロになりました。その結果、営業総利益は 37.7%増加して 3 億 7,700 万ユーロとなり、SRF を除くコスト比率は 46.6%と、2022 年第 3 四半期から 2.8 ポイント改善しました。2023 年第 3 四半期の**リスク関連費用**は 2 億 600 万ユーロでした。45.9%もの増加の原因となったのは、主にモビリティ事業の統合⁶⁷、それに加えて従来の事業分野におけるインフレ環境の影響です。年換算で残高に対する信用リスク関連費用は 124 ベーシス・ポイントとなりました⁶⁸。不良債権比率は 4.0%(2023 年 6 月末には 3.8%)、不良債権引当率は 82.4%(同 83.4%)にそれぞれ低下しましたが、これは主に CA オートバンクの連結によるものです。**持分法適用会社の純利益**は 93.8%減の 500 万ユーロでした。これには、前四半期以降の 50/50 のジョイント・ベンチャー Leasys の設立が含まれていますが、50/50 のジョイント・ベンチャーとして 2023 年第 1 四半期まで計上されていた FCA バンクは除外されています。同期間中の CACF のモビリティ事業の再編成に関連する 1 回限りの要因の 2,600 万ユーロを除くと、持分法適用会社の純利益は 3,200 万ユーロとなり、Leasys の設立による寄与は当四半期には 1,700 万ユーロとなりました。**その他資産からの純利益**は 5,700 万ユーロで、これには CACF のモビリティ事業の再編成に関する項目のみが含まれています⁶⁴。**税金費用**は 6,700 万ユーロとなりました。1 回限りの項目を除くと、2023 年第 3 四半期の税金費用は 5,100 万ユーロとなり、57.3%増加しました。最後に、**純利益グループ帰属分**は 1 億 4,900 万ユーロでした(3.6%減)。CACF のモビリティ事業の再編成に関連する 1 回限りの項目を除くと⁶⁴、2023 年第 3 四半期には 15.9%減の 1 億 3,000 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間には、CACF のモビリティ事業の再編に伴い、消費者金融に影響を及ぼす特殊要因が主に第 2 四半期、次いで第 3 四半期に集中しました。影響は前述のものと同じで、消費者金融のモビリティ事業の再編に関するものです。表示**収益**は 21 億 9,900 万ユーロとなりました(37.7%増)。特殊要因の調整後の収益は 18 億 9,900 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 18.9%増加しました。SRF を除く表示**費用**は 9 億 4,200 万ユーロでした(15.3 増)。特殊要因の調整後の費用は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 13%増加しました。SRF への拠出額は 1,300 万ユーロ(2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 17.7%減)でした。特殊要因と SRF を除いた**コスト比率**は 48.6%と低水準にとどまりました。この結果、基礎営業総利益は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 26%増加しました。表示**リスク関連費用**は 6 億 3,800 万ユーロとなりました(78.1%増)。特殊要因の調整後では、リスク関連費用は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 54.5%増加し、5 億 5,300 万ユーロとなりました。**持分法適用会社の表示寄与**は 61.4%減少して 9,300 万ユーロになりました。特殊要因の調整後では、45.3%減の 1 億 3,100 万ユーロでした。**その他の資産の表示利益**は 8,000 万ユーロでした。これは主に特殊要因から成ります。そのような要因を除くと、その他の資産に関する基礎純利益はマイナス 800 万ユーロでした。最後に、**2023 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分**は 5 億 700 万ユーロでした(14.3%増)。特殊要因の調整後では、21.5%減の 3 億 4,900 万ユーロとなりました。

⁶⁵ 当四半期の収益への寄与は 2 億 200 万ユーロ

⁶⁶ 当四半期の経費への寄与は 7,300 万ユーロ

⁶⁷ 当四半期のリスク関連費用への寄与は 2,800 万ユーロ

⁶⁸ 残高に対する年換算のリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期期首時点の残高で除して算出されています。

リースとファクタリングの実績

収益は、主にファクタリングの取引量と価格を原動力として、2022 年第 3 四半期と比べて 12.8%増の 1 億 7,700 万ユーロとなりました。注目すべき点は、リース収益が前期比で引き続き安定的に推移したことです。SRF を除く費用は、ポーランドでの給与増加、ドイツでのリースと IT 開発の増加など主にフランス国外の要因により、400 万ユーロ増加(5.5%増)しました。SRF を除いたコスト比率は、2022 年第 3 四半期と比べて 3.7 ポイント改善し、53.4%となりました。その結果、営業総利益は 8,200 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期から大幅に増加(22.5%増)しました。当四半期のリスク関連費用はリースを中心に 1,800 万ユーロに増加し、純利益グループ帰属分は 2022 年第 3 四半期と比べて約 10%増の 5,500 万ユーロになりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の収益は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.1%増の 5 億 1,800 万ユーロとなりました。SRF を除いた費用は、5.7%増加して 2 億 8,200 万ユーロになりました。2023 年の SRF 拠出額は 1,500 万ユーロ(2022 年と比べて 15.0%減)となりました。営業総利益は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 16.2%増と急増し、2 億 2,100 万ユーロになりました。SRF を除いた基礎コスト比率は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1.8 ポイント改善され、54.4%となりました。リスク関連費用は同期間中に 63.8%増加しました。同部門の基礎純利益グループ帰属分への寄与は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 2.2%増の 1 億 2,700 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル S.A. リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコル S.A. のリテール・バンキング部門では、ローン組成は市場動向を反映し、金利上昇を背景に引き続き低調に推移しました（特に LCL）。しかし、顧客獲得は引き続き好調に推移し、多数の顧客が保険契約に加入しました。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

フランスのリテール・バンキング部門では、2023 年第 3 四半期の LCL のローン組成は引き続き減速し、2022 年第 3 四半期と比べて 39.5%減の 68 億ユーロとなりました。これは、金融引き締めに関連する市場全体の鈍化と、2022 年の高水準の組成に伴うベース効果に沿うものです。フランス市場の減速（フランス銀行によると、2022 年 8 月と比べて 2023 年 8 月の住宅ローン組成は 44.3%減）を背景に、2022 年第 3 四半期と比べて、スモールビジネス向けの組成は 29.4%減、法人向けの組成は 28.5%減、住宅ローンの組成は 51.1%減となりました。一方、住宅ローンの貸出金利は引き続き上昇し、LCL は 2023 年第 2 四半期から 2023 年第 3 四半期の間に 56 ベーシス・ポイント上昇しました。契約合意時の金利は 4.41%でした（2023 年 10 月 9 日～13 日の週）。貸出残高は 2023 年 9 月末で 1,680 億ユーロとなり、2022 年 9 月末比で 4.2%増加しました。これには、住宅ローン（5.2%増）、スモールビジネス向け貸付（4.5%増）、企業向け貸付（1.6%増）、消費者金融（1.0%増）が含まれます。顧客資産は 2023 年 9 月末時点において 2,410 億ユーロで、2022 年 9 月末と比べて 4.6%増加しました。この原動力になったのは、定期預金（2022 年 9 月末と比べると 2.4 倍だが、2023 年 6 月末と比べると 9.4%の緩やかな増加）、通帳預金（2022 年 9 月末と比べると 12.8%増だが、2023 年 6 月末と比べると 2.1%増と小幅な増加）の増加に伴うオン・バランスシートの預金（5.6%増）でした。一方、オフ・バランスシートの預金も 2022 年 9 月末と比べて増加しました（2.9%増）。

2023 年第 3 四半期には、新規顧客獲得数は 81,600 人、純顧客獲得数は 14,600 人となりました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、2022 年第 3 四半期と比べて 0.5 ポイント上昇し、2023 年 9 月末には 27.6%になりました。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2023 年第 3 四半期には、イタリアのリテール銀行である CA イタリアの事業は、イタリアの市場の低迷にもかかわらず引き続き好調でした。当四半期の大きな出来事は、住宅ローンに関する CA イタリアのキャンペーンが成功を収めたことでした⁶⁹。2023 年第 3 四半期の顧客獲得総数は、新規顧客が 46,000 人となり、顧客基盤は 15,000 人増加しました⁷⁰。損害保険のクロスセル・レート⁷¹は引き続き上昇し（2022 年第 3 四半期比で 2.2 ポイント上昇）、18.3%となりました。

また、CA イタリアの 2023 年 9 月末の貸付残高は 595 億ユーロ⁷²となり、イタリア市場の減少傾向に反して、2022 年 9 月末と比べて 0.9%の増加となりました⁷³。住宅ローン残高の増加も特に大きく、2022 年 9 月末と比べて 3.6%増となりました。2022 年第 3 四半期と比べて 50%増となった活発な組成が伸びを牽引しました。貸付残高に対する平均金利は引き続き上昇し、2023 年第 2 四半期から 34 ベーシス・ポイント上昇しました。

最後に、2023 年 9 月末の顧客の貯蓄額は 1,132 億ユーロとなり、2022 年 9 月末と比べて 3.2%増加しました。オン・バランスシートの預金は 2022 年 9 月末と比べて 6.8%増加しました。イタリア国債と競合するにもかかわらず、個人預金の額が大きいと、そのコストは妥当な水準にとどまっています。対照的に、オフ・バランスシートの預金は、市場効果と資金流出（ただし過去数四半期と比べると低水準）により、2022 年 9 月末と比べて 1.1%減となりました。

⁶⁹ 2.99%の固定金利住宅ローン。2023 年 4 月から 5 月にかけて実施されたマーケティングキャンペーン。

⁷⁰ 2023 年 9 ヶ月累計期間に、新規顧客獲得数は 13 万人、純顧客獲得数は 4 万 5,000 人。

⁷¹ 自動車、住宅、法務、すべての携帯電話または個人傷害保険

⁷² POCI 残高の控除後

⁷³ 出典: Abi Monthly Outlook (2023 年 10 月): すべてのローンで前年 9 月と比べて 4.1%減。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループの活動⁷⁴

イタリアの事業体の**基礎収益**は、CA イタリアの純金利マージンが好調だったことを主因として、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 22%増加しました。最後に、2023 年 9 ヶ月累計期間のクレディ・アグリコル SA の業績に対するイタリアの寄与は、8 億 9,500 万ユーロに達し、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 30%改善しました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

2023 年 9 月末時点でこの部門の範囲には、エジプト、ポーランド、ウクライナが含まれました。2022 年 9 月末時点では、クレディ・デュ・モロッコ⁷⁵も含まれていました。

イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、ポーランドとエジプトで商業活動が活発になりました。

イタリアを除く国際リテール・バンキング事業の 2023 年 9 月末の**貸付残高**は 70 億ユーロとなり、2022 年 9 月末と比べて 42.8%減少しました。この急減は、主にクレディ・デュ・モロッコの売却によるものです。クレディ・デュ・モロッコの残高の調整後では、2023 年 9 月末と比べた残高は 6.6%の減少となります（為替変動の影響を除くと 1.7%増）。顧客の貯蓄額は 103 億ユーロとなり、2023 年 9 月末と比べて 31.4%減少しましたが、クレジット・デュ・モロッコの残高は 0.4%増（為替変動の影響を除くと 18.5%増）と安定して推移しました。

為替変動の影響を除くと、**ポーランドとエジプト**の貸付残高は、2022 年 9 月末と比べて 5.4%増加しました。顧客の貯蓄額は同期間に 14.4%増加しました（為替変動の影響を除く）。ポーランドの貸付残高は、主にリテール・バンキングと活発なローン組成（2022 年第 3 四半期比 25%増）により、2022 年 9 月と比べて 4.3%増加しました。オン・バランスシートの預金は 3.0%増加しました。**エジプト**では、ローン組成の急増を原動力として、貸付残高は 2022 年 9 月末と比べて 10.7%増加しました（為替変動の影響を除く）。オン・バランスシートの預金は、為替変動の影響を除くと、2023 年 9 月末と比べて 50.3%増と大幅な増加となりました。

ポーランドとエジプトでは、2023 年 9 月 30 日現在、融資を上回る**預金**が 22 億ユーロあり、ウクライナの範囲を含めると 37 億ユーロに達しました⁷⁶。

2023 年 9 月 30 日現在、**リテール・バンキング**部門は、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 23%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 30%に寄与しました。

2023 年 9 月 30 日現在、この部門に配分された資本は 96 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 50 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 46 億ユーロでした。当部門のリスク・ウェイト資産は 1,003 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 522 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 481 億ユーロでした。

フランスのリテール・バンキングの業績

2023 年第 3 四半期の LCL の収益は、2022 年第 3 四半期と比べて 5.9%増の 9 億 9,600 万ユーロとなりました⁷⁷。住宅購入貯蓄引当金の戻し入れを除くと、収益は 2022 年第 3 四半期と比べて 0.4%増と安定して推移しており、9 億 4,400 万ユーロとなりました。住宅購入引当金の戻し入れを除く純金利マージンは、2022 年第 3 四半期比で小幅増加（0.7%増）にとどまりましたが、前期比では 6.5%増加しました。これは、資産側の平均貸付金利が着実に上昇したことに伴う貸出利回りの上昇や、マクロヘッジ効果によるものですが、引き続き顧客の資金調達コストや借り換えコストの増加により圧迫されました。当四半期には、手数料収入も全サービスで安定して推移しました（0.2%増）。**SRF を除く費用**は 5 億 8,900 万ユーロに抑えられ、人件費の増加（再評価）により、2022 年第 3 四半期比で 3.0%増と小幅な増加となりました。SRF を除いたコスト比率は 1.7 ポイント低下して 59.1%となり、低水準にとどまっています。営業総利益は 10.5%増加し、4 億 700 万ユーロとなりました。**リスク関連費用**は引き続き正常化し、2022 年第 3 四半期と比べて 29.4%増の 7,000 万ユーロ（2023 年第 2 四半期と比べると横ばい）となりました。残高に対する信用リスク関連費用は⁷⁸17 ベーシス・ポイントとなりました。不良債権引当率は 6 月末時点において 62.0%で、2023

⁷⁴ 2023 年 9 月 30 日現在、この範囲は、イタリアに存在するすべてのグループ事業体、すなわち CA イタリア、CACF (Agos, Leasys, CA オートバンク)、CAA (CA Vita, CACI, CA Assicurazioni)、アムンディ、CACIB、CAIWM、CACEIS の総計に相当します。

⁷⁵ 2022 年第 4 四半期におけるクレディ・デュ・モロッコの支配権（63.7%）の処分

⁷⁶ ウクライナにおける過剰流動性は、主としてウクライナ中央銀行に預託され、2023 年第 3 四半期の平均利率は 19.2%となっています。

⁷⁷ 住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ 5,200 万ユーロが含まれます。

⁷⁸ ローリング 4 四半期

年 6 月末比で 0.8 ポイント低下しました。2023 年 9 月末の不良債権比率は 1.9%となり、2023 年 6 月末からほぼ横ばいとなりました。最後に、**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 16.4%増の 2 億 6,400 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間の LCL の収益は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1.5%減の 28 億 9,100 万ユーロとなりました。借り換えや資金調達の費用の増加を背景に、純金利マージンが縮小(8.1%減)したことが響きました。ただし、生命保険、損害保険、支払手段をはじめとする手数料収入は増加(5.9%増)しました。SFR を除く費用は安定的に推移し(0.1%増)、SFR を除くコスト比率は 60.2%(1.0 ポイント増)と引き続き抑えられました。その結果、営業総利益は 2.0%減少し、関連費用は 29.2%増加しました。全体として、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 4.0%減少し、6 億 7,300 万ユーロとなりました。

最終的に、同部門は、2023 年 9 ヶ月累計期間におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の**基礎純利益グループ帰属分**の 12%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 15%に寄与しました。

2023 年 9 月 30 日時点で、LCL の基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は 15.9%になりました。

国際リテール・バンキングの業績⁷⁹

2023 年第 3 四半期には、**国際リテール・バンキング部門**の収益は 10 億 2,400 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 27.3%増加(為替変動の影響を除くと 32.1%増加)しました。これは主に、金利上昇を背景とした純金利マージンの拡大によるものです。**営業費用**は、インフレ環境にもかかわらず抑えられ、2022 年第 3 四半期と比べて 3.7%増(為替変動の影響を除くと 5.6%増)の 5 億 400 万ユーロとなりました。結果として、**営業総利益**は 5 億 2,000 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期比で 63.3%増加しました(為替変動の影響を除くと 75%増)。**リスク関連費用**は 1 億 2,100 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて安定的に推移しました。**国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分**は 2 億 2,500 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期から倍増しました(為替変動の影響を除くと 1.2 倍)。

2023 年 9 ヶ月累計期間の**国際リテール・バンキング部門**の収益は 23.8%増の 29 億 7,500 万ユーロ(為替変動の影響を除くと 17.6%増)でした。**SRF を除く費用**は 15 億 3,100 万ユーロと抑えられ、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて安定して推移しました(現在の為替レートでは 1.1%増、為替変動の影響を除くと 0.5%増)。これには、2022 年に基礎ベースで 3,000 万ユーロのクレバル統合費用の調整が加えられたことによるベース効果が寄与しました。**営業総利益**は 14 億 4,400 万ユーロとなり、62.1%増加しました(為替変動の影響を除くと 43.5%増)。**リスク関連費用**は、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 29.1%減少し、3 億 6,200 万ユーロとなりました。これは主に、ウクライナのリスクに対する慎重な引当金の計上が 2022 年第 1 四半期の基礎利益で調整されたことによるものです⁸⁰。全体として、**国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分**は、2022 年 9 ヶ月累計期間の 1 億 2,300 万ユーロから、6 億ユーロとなりました⁸⁰。

国際リテール・バンキング部門では、2023 年 9 ヶ月累計期間に、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センターを除く)の**基礎純利益グループ帰属分**の 12%、コーポレート・センターを除いた**基礎収益**の 15%に寄与しました。

⁷⁹ 2023 年 9 月 30 日時点で、この範囲には CA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれます。

⁸⁰ 2022 年第 1 四半期の基礎利益の調整後で、ウクライナのリスク引当金 1 億 9,500 万ユーロ

イタリアのリテール・バンキングの業績

2023 年第 3 四半期のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は、2022 年第 3 四半期と比べて 26.8%増加し、7 億 8,300 万ユーロとなりました。金利上昇は引き続き純金利マージンの支えとなり、資産側の平均貸出金利にプラスの影響を及ぼしました(2023 年第 2 四半期比で 34 ベーシスポイント上昇)。しかし、2023 年第 3 四半期の純金利マージンは 2023 年第 2 四半期と同水準でした。**SRF を除く基礎営業費用**は、人件費の増加により、2022 年第 3 四半期と比べて 4.8%増加して 3 億 9,400 万ユーロとなりました。営業総利益は 2022 年第 3 四半期と比較して大幅に増加(60.9%増)し、3 億 8,900 万ユーロとなりました。2023 年第 3 四半期の**リスク関連費用**は、2022 年第 3 四半期と比べて 35.7%増加し、8,400 万ユーロとなりました。これには、確認済みリスクに関する 7,400 万ユーロ、正常債権に対する引当 700 万ユーロが含まれます。残高に対するリスク関連費用⁸¹は、2023 年第 2 四半期比で 3 ベーシスポイント上昇し、60 ベーシスポイント⁸²となりました。不良債権比率は 3.6%で、2023 年第 2 四半期から 0.1%ポイントプラスと小幅上昇しました。不良債権引当率は 69.4%となっています(2023 年第 2 四半期と比べて 1.7 ポイント上昇)。CA イタリアの**純利益グループ帰属分**は、2022 年第 3 四半期と比べて 64.8%増の 1 億 6,600 万ユーロとなりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間では、**クレディ・アグリコル・イタリア**の収益は 23.9%増の 23 億 400 万ユーロとなりました。**SRF を除く営業費用**は 11 億 6,300 万ユーロに抑えられ、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて安定的に推移し、2022 年に計上されたクレバルの統合費用 3,000 万ユーロの調整後で 4.2%増となりました。**営業総利益**は 11 億 100 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 63.3%増加しました(2022 年のクレバル統合費用の調整後では 56.3%増)。**リスク関連費用**は、主に正常債権の引当金の増加(4,600 万ユーロ増加)により、29.2%増の 2 億 3,400 万ユーロとなりました。この結果、CA イタリアの**純利益グループ帰属分**は 4 億 7,600 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 68.4%増加しました。

2023 年 9 月 30 日時点の CA イタリアの基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は 21.6%となりました。

国際リテール・バンキング(イタリアを除く)の業績⁸³

2023 年第 3 四半期には、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**の収益は 2 億 4,100 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期と比べて 29.3%増加(為替変動の影響を除くと 53.3%増加)しました。ポーランドとエジプトをはじめとする増収(2022 年第 3 四半期と比べて 33.9%増、為替変動の影響を除くと 64.4%増)の原動力となったのは、この地理的範囲で純金利マージンが 81%増加したことでした(為替変動の影響を除くと 45%増加)。**営業費用**は 1 億 1,000 万ユーロと抑えられており、2022 年第 3 四半期と比べて安定して推移しています(為替変動の影響を除くと 8.6%増)。**営業総利益**は 1 億 3,100 万ユーロとなり、2022 年第 3 四半期比で 70.9%増加しました(為替変動の影響を除くと 1.3 倍)。**リスク関連費用**は 37.0%減の 3,600 万ユーロでした。この金額には、ポーランドにおける 2023 年第 3 四半期のスイスフラン建てローンの引当が含まれます。さらに、2023 年 9 月末現在、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで 129%、エジプトで 160%と非常に高水準にとどまっています。ウクライナでは、地域の不良債権引当率は慎重な水準にとどまっています。全体では、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**は純利益グループ帰属分に 5,900 万ユーロ寄与し、2022 年第 3 四半期と比べて 6.2 倍となりました。

2023 年 9 ヶ月累計期間には、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**の収益は 6 億 7,100 万ユーロとなり、純金利マージンの拡大により 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 23.4%増加(為替変動の影響を除くと 48.0%増加)しました。**SRF を除く営業費用**は、為替変動の影響から恩恵を受けて安定して推移し、3 億 2,800 万ユーロとなりました(2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 0.2%増、為替変動の影響を除くと 10.7%増)。**営業総利益**は 3 億 4,300 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 58.4%増加しました(為替変動の影響を除くと 1.2 倍)。**リスク関連費用**は 1 億 2,800 万ユーロとなり、2022 年第 1 四半期の基礎利益に合わせた調整後で、ウクライナ向けの 1 億 9,500 万ユーロの引当金の影響を受けた 2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 61.2%減少しました。**非継続事業からの利益**は、2022 年第 4 四半期のクレディ・デュ・モロッコの支配権の移転により、2022 年 9 ヶ月累計期間から 2,100 万ユーロ減少し、2023 年 9 ヶ月累計期間には 700 万ユーロになりました。最後に、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**の**純利益グループ帰属分**への寄与は、1 億 2,400 万ユーロとなりました(2022 年 9 ヶ月累計期間には、ウクライナに対する引当金の影響によりマイナス 1 億 5,900 万ユーロ)。

⁸¹ ローリング 4 四半期ベース。

⁸² 残高に関するリスク関連費用は、年換算の四半期ベースでは 56 ベーシスポイントです。

⁸³ クレディ・デュ・モロッコの事業体は 2022 年第 1 四半期から IFRS 第 5 号に分類されており、2022 年第 4 四半期には支配持分(63.7%)の処分が実施されました。残りの 15%は 18 カ月以内に売却される予定です。

2023 年 9 月 30 日時点で、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の基礎的な RoNE(資本収益率)は 24.5%となりました。

コーポレート・センターの業績

クレディ・アグリコル全体での保険事業の連結に伴う「内部マージン」効果は、コーポレート・センターを通じて計上され、クレディ・アグリコル SA のコスト比率の更なる低下に寄与しました。四半期ベース内部マージンの影響は、収益では 2 億 1,100 万ユーロ減、費用では 2 億 1,100 万ユーロ増でした。2023 年 9 ヶ月累計期間の影響は、収益では 6 億 700 万ユーロ減、費用では 6 億 700 万ユーロ増でした。

2023 年第 3 四半期のコーポレート・センター部門の基礎純利益グループ帰属分は 5,500 万ユーロ減少となり、2022 年第 3 四半期比で 1 億 9,100 万ユーロ増加しました。コーポレート・センター部門の寄与は、「構造的」寄与(2,400 万ユーロ減少)とその他の項目(3,100 万ユーロ減少)に区別して分析することができます。

「構造的」部分の寄与は 2022 年第 3 四半期と比べて 2 億 7,500 万ユーロ増加し、その内訳は、以下の 3 つの活動に分けられます。

- **クレディ・アグリコル S.A.本社が保有するコーポレート・センターの事業と機能。**2023 年第 3 四半期には、住宅購入貯蓄引当金の戻し入れによる 1 億 7,100 万ユーロのプラスの影響を含め、この寄与は 2 億 5,100 万ユーロ増の 6,400 万ユーロ減少となりました。
- CACIF(未公開株式)、CA イモビリエ、BforBank(持分法適用)など、**事業ラインに含まれない事業。**これらの事業の 2023 年第 3 四半期の寄与は 3,700 万ユーロとなり、3,000 万ユーロ増加しました。これは、Banco BPM の証券の再評価(2023 年 9 月 30 日時点において価格 4.535 ユーロで 3,400 万ユーロ、2023 年 6 月 30 日と比べて 6%増加)に起因するプラスの影響によるものです。
- **グループ支援機能**当四半期の寄与は 400 万ユーロでした(2022 年第 3 四半期比で 500 万ユーロ減少)。

「その他の項目」の寄与は、インフレの季節性および当四半期の OIS/BOR の変動に伴うマイナスの影響により、2022 年第 3 四半期から 8,500 万ユーロ減少しました。

2023 年 9 ヶ月累計期間のコーポレート・センター部門による基礎純利益グループ帰属分への寄与はマイナス 3 億 7,500 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べ 1 億 3,300 万ユーロ増加しました。2023 年 9 ヶ月累計期間の構造的部分の寄与は 4 億 8,000 万ユーロ減少となり、この部門のその他の項目の寄与は 1 億 500 万ユーロ増加となりました。

「構造的」部分の寄与は 2022 年 9 ヶ月累計期間と比較して 2 億 3,600 万ユーロ増加し、その内訳は、以下の 3 つの活動に分けられます。

- **クレディ・アグリコル S.A.本社が保有するコーポレート・センターの事業と機能。**この寄与は 6 億 8,100 万ユーロ減少となり、住宅購入貯蓄引当金の戻し入れ 1 億 7100 万ユーロを考慮すると、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9,100 万ユーロの増加となりました。
- CACIF(プライベートエクイティ)や CA イモビリエ及び BforBank など、事業の一部ではない事業部門。これらの部門の寄与はプラス 1 億 8,800 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べ 1 億 4,900 万ユーロ増加しました。
- **当グループのサポート機能:**プラス 1,200 万ユーロの寄与となり、2022 年 9 ヶ月累計期間の寄与と比べて 400 万ユーロ減少しました。

「その他の項目」の寄与は 1 億 500 万ユーロとなり、2022 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1 億 400 万ユーロ減少しました。

2023 年 9 月 30 日現在、リスク・ウェイト資産は 260 億ユーロでした。

* *

 *

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2023 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の普通株式ティア 1(CET1)レシオは、2023 年 6 月末と比べて 10 ベーシス・ポイント低下して 17.5%となりました。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と、9.3%という SREP 要件との差が 8.2 ポイントという大きなバッファーを達成し⁸⁴、欧州 G-SIB 銀行の中で SREP との差が最大となりました⁸⁵。全面適用ベースの CET1 レシオは 17.3%でした。

2023 年第 3 四半期：

- 2024 年 6 月 30 日までに SAS La Boétie によるクレディ・アグリコル S.A.の株式購入が実施される影響を 2023 年第 3 四半期に見込んで、CET1 レシオが 17 ベーシス・ポイント低下しました。
- CET1 レシオは、**留保利益**により 31 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受け、事業ラインの有機的成長率を上回りました。
- **事業ラインの有機的成長**に関連するリスク・ウェイト資産の変動は、当グループの CET1 レシオにマイナス 22 ベーシス・ポイントの影響を及ぼしました。これは、事業ラインのリスク・ウェイト資産の増加分に相当します(うち、地域銀行が 21 億ユーロ)。

2023 年 9 月末の段階導入のティア 1 レシオは 18.7%、段階導入の総自己資本比率は 21.5%となりました。

段階適用のレバレッジ・レシオは 5.6%となり、規制要件である 3.5%を大きく上回っています。国際的な金融システム上重要な金融機関(G-SII)に限り、2023 年 1 月 1 日から 3%の最低要件が適用されるのに加え、レバレッジ・レシオ・バッファーが追加されます。これは、企業の G-SII バッファーの半分として定義され、クレディ・アグリコル・グループの場合は 0.5%となります。

クレディ・アグリコル・グループのリスク・ウェイト資産は、2023 年 6 月 30 日に比べ、96 億ユーロ増加して 6,055 億ユーロになりました。**事業ラインの有機的成長**(為替を含む)はこの増加に 64 億ユーロ寄与し、そのうち 21 億ユーロが地域銀行のリスク・ウェイト資産でした。**合併・買収**は、RBC IS in Europe(18 億ユーロ)と ALD LeasePlan(16 億ユーロ)の統合に関係しますが、CA オートバンクのシンセティック証券化(32 億ユーロ)の算入により一部相殺されました。最後に、**方法と規制の影響**は、保険のれんの規制上の取り扱い変更による影響を除くと、当四半期中、9 億ユーロ減少のプラス効果がありました。

最大分配可能額 (MDA 及び L-MDA) トリガー閾値

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで(CRD)、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額(MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額)の原則は、分配が総資本バッファー要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDAトリガーまでの距離は、CET1 資本、ティア 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2023 年 9 月 30 日時点で MDAトリガーを 768 ベーシス・ポイント(CET1 資本で 470 億ユーロ)上回るバッファーとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2023 年 9 月 30 日時点で MDAトリガーを 354 ベーシス・ポイント(CET1 資本で 140 億ユーロ)上回る安全バッファーとなりました。

⁸⁴ 2023 年 9 月 30 日時点で、カウンターシクリカル・バッファーは上昇し(2023 年 6 月 30 日の 40 ベーシス・ポイントから 2023 年 6 月 30 日には 43 ベーシス・ポイントに上昇)、SREP 要件は 9.3%に引き上げられました。

⁸⁵ 12 行の欧州 G-SIB の公表データに基づきます。CAG、パークレイズ、BNPP、ドイツ銀行、HSBC、ING、サンタンデール銀行、スタンダードチャータード銀行、ソシエテ・ジェネラル、ユニクレディ、UBS については 2023 年 9 月 30 日時点、BPCE については 2023 年 6 月 30 日時点のデータです。CASA データ(2023 年 6 月 30 日)。SREP または CET1 相当の要件との差。

レバレッジ・レシオ・バッファの要件に従わない場合、分配の制限と最大分配可能額 (L-MDA) の計算が行われます。

クレディ・アグリコル・グループは、2023 年 9 月 30 日時点で L-MDA トリガーを 213 ベーシス・ポイント (ティア 1 資本で 430 億ユーロ) 上回るバッファとなりしました。

TLAC

TLAC レシオの要件は、CRR2 を介して EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。クレディ・アグリコル・グループは、常に以下の TLAC レシオ要件に従う必要があります。

- リスク・ウェイト資産 (RWA) の 18% を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファ要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5% の資本保全バッファ、1% の G-SIB バッファ、及び 2023 年 9 月 30 日に 0.43% に設定されたカウンターシクリカル・バッファ)。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、21.9% 超の TLAC レシオに従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー (LRE) の 6.75% 超となる TLAC レシオ。

クレディ・アグリコル・グループの 2025 年の目標は、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 26% 以上に維持することです。

2023 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオは、リスク・ウェイト資産の 27.1% 及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.2% と (適格優先シニア債を除く)⁸⁶、要件を大きく上回りました。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、RWA の増加を反映し、当四半期中に安定的に推移しました。これは、当期間における資本および適格項目の増加により相殺されました。レバレッジ・エクスポージャーの比率 (LRE) として表される TLAC レシオは、2023 年 6 月と比べて 10 ベーシス・ポイント上昇しました。

よって、当グループの適格優先シニア債を除く TLAC レシオは、RWA の 21.9% という現在の要件を 520 ベーシス・ポイント (310 億ユーロ) 上回っています。

2023 年 10 月 3 日時点で、12 億 5,000 万ユーロの AT1 に加えて、52 億ユーロ相当が市場で発行されました (非優先シニア債及びティア 2 債券)。9 月末時点で、TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、276 億ユーロでした。

MREL

要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。2022 年 1 月 1 日以降、クレディ・アグリコル・グループは、以下の MREL 最低合計要件を満たすよう求められています：

- 21.04% の RWA と、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファ要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5% の資本保全バッファ、1% の G-SIB バッファ、及び 2023 年 9 月 30 日に 0.43% に設定されたカウンターシクリカル・バッファ)。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、25.0% 超の合計 MREL レシオに従う必要があります。
- LRE の 6.02%。

2023 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 32.2% 及びレバレッジ・エクスポージャーの 9.7% と、合計 MREL 要件を大きく上回りました。

TLAC に対する追加的な劣後要件 (劣後 MREL) も破綻処理当局によって決定され、TLAC と同様に、優先債務証券が除外されている RWA と LRE の比率で表されます。この比率はクレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL に相当します。2022 年 1 月 1 日以降、クレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL 要件は、TLAC 要件を上回っています。

⁸⁶ クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則 (CRR) 第 72ter 条 3 項が認めている、2023 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。

せん。

MREL 要件に関連する最大分配可能額(M-MDA)トリガーまでの距離は、RWA で表される MREL、劣後 MREL 及び TLAC 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2023 年 9 月 30 日時点で M-MDA トリガーを 520 ベーシス・ポイント(2023 年 9 月 30 日時点で適用される TLAC 要件を考慮、CET1 資本で 310 億ユーロ)上回るバッファーとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.

2023 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.のソルベンシーレシオは中期計画目標を上回っており、**段階適用の普通株式ティア 1(CET1)レシオ**は 2023 年 6 月 30 日から 21 ベーシスポイント上昇して **11.8%**となりました。この結果、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と SREP 要件 8.2%との間で 3.6 ポイントという大きなバッファを達成しました⁸⁷。当四半期中、カウンターシクリカル・バッファが小幅上昇したにもかかわらず、バッファは 2023 年 6 月末時点の 3.4 ポイントを上回っています。2023 年第 3 四半期の全面適用ベースの CET1 レシオは 11.7%でした。

- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**に関連する 20 ベーシスポイント改善の恩恵を受けました。この影響は、AT1 債券利息の控除後および利益の 50%の分配の控除後(すなわち 2023 年第 3 四半期の 1 株当たり 0.26 ユーロの配当準備金と 2023 年 9 ヶ月累計期間の 1 株当たり 0.76 ユーロの配当準備金)の純利益グループ帰属分に対応します。
- **事業ラインの有機成長**によるリスク・ウェイト資産の変動は、CET 1 レシオに-15 ベーシスポイントの影響を与えました。これには当事業ラインのリスク・ウェイト資産の増加 49 億ユーロが含まれ、その主な内訳は、大口顧客部門が 21 億ユーロ(一部はユーロ/米ドルの為替変動のマイナスの影響に関連)、リテール・バンキング部門が 15 億ユーロ(主にフランスとイタリア)、保険が 14 億ユーロ(第 3 四半期の留保利益に伴う持分法の価値の増加による⁸⁸)でした。
- **方法と規制の影響**は、CET 1 レシオを 16 ベーシスポイント押し上げましたが、これは主に、間接保有に伴うのれんの直接控除を認める EBA FAQ に基づく保険のれんの規制上の取り扱い変更に関するものです。この方法の変更による影響は 15 ベーシスポイント増加です。
- 最後に、**合併・買収**により CET 1 レシオは 4 ベーシスポイント低下し、RBC IS の買収で-7 ベーシスポイント、LeasePlan の買収で 6 ベーシスポイント減少となりました。これは、当四半期に CA オートバンクのシンセティック証券化を算入したことで(+11 ベーシスポイント)一部相殺されました。
- **OCI およびその他の項目**は、CET 1 レシオにプラス 4 ベーシスポイントの影響を及ぼしました。

2023 年 9 月末の段階適用の**レバレッジ比率**は 4.0%となり、2023 年 6 月末と比べて安定的に推移し、規制要件である 3%を上回りました。

当四半期末の段階導入の**ティア 1 レシオ**は 13.7%、段階導入の**総自己資本比率**は 17.9%となりました。

クレディ・アグリコル S.A.の**リスク・ウェイト資産**は、2023 年 9 月末には、2023 年 6 月 30 日に比べて 70 億ユーロ増加して 3,839 億ユーロになりました。**事業ラインの寄与**(為替の影響を含む)は 40 億ユーロになりました。これには、ユーロ/米ドルの為替変動を主因とする大口顧客部門のリスク・ウェイト資産(21 億ユーロ増)、ならびに第 3 四半期の保険の留保利益に伴うアセット・ギャザリング部門のリスク・ウェイト資産(OCIを含めて 4 億ユーロ増)の増加が含まれました。上記の**合併・買収**はリスク・ウェイト資産の増加に 2 億ユーロ寄与しましたが、RBC IS Europe と ALD/LeasePlan の買収の影響は CA オートバンクの証券化によって相殺されました。

⁸⁷ 2023 年 9 月 30 日に、カウンターシクリカル・バッファは上昇し(2023 年 6 月 30 日の 34 ベーシスポイントから 2023 年 9 月 30 日には 39 ベーシスポイントに上昇)、SREP 要件は 8.2%に引き上げられました。

⁸⁸ OCI を除く持分法適用価額の増減額

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクションの間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これはバンキング部門の範囲に関係するものであり、保険事業はそれぞれの独自の規制上の制約に従って管理されます。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2023 年 9 月末時点で総額 360 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,400 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、除外されています。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2023 年 9 月末現在で 2,020 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門(CIB)が保有する非流動証券に関係し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額(2023 年 9 月末時点で 930 億ユーロ)は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中央銀行からの流動性調達取引については、T-LTRO(長期資金供給オペ)に関連する残高は、「長期市場資金」に含まれることにご注意ください。実際に、T-LTRO3 の取引は、流動性リスクの点で担保付き債券と同一の長期保証資金供給に類似しています。

中長期レポ取引も「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的關係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2023 年 9 月 30 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 6,580 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 1,780 億ユーロ**でした。9 月の TLTRO の返済(80 億ユーロ)後で、2023 年 6 月末と比べて 60 億ユーロ増加しました。

さらに、クレディ・アグリコル・グループの TLTRO 3 残高の合計は 2023 年 9 月 30 日時点で 376 億ユーロとなり⁸⁹、当四半期中の返済により 80 億ユーロ減少⁹⁰しました。安定的なリソースのポジションに関しては、内部管理目的では、返済戦略に関わらず、中期計画の目標である 1,100 億ユーロから 1,300 億ユーロを確保するため、T-LTRO3 残高の増加による安定資金の一時的な余剰は除外している点に注意が必要です。

また、流動性が超過していることから、2023 年 9 月 30 日現在、当グループは短期貸付のポジション(中央銀預け金)が短期債務純額を上回っていることを維持しています。

⁸⁹ CA オートバンクを含む

⁹⁰ CA オートバンクを含む

中長期市場資金は 2023 年 9 月 30 日現在で 2,620 億ユーロになり、2023 年 6 月末と比べて 20 億ユーロ増加しました。安定的な資金流入の増加と借り換え計画の実行により、2023 年 9 月の T-LTRO 3 の返済は相殺されました。

これには、1,060 億ユーロの担保付きシニア債、1,040 億ユーロの優先シニア債、300 億ユーロの非優先シニア債、220 億ユーロのティア 2 債券が含まれます。

2023 年 9 月 30 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット後の時価で 4,190 億ユーロとなり、2023 年 6 月末から見積もりベースで 150 億ユーロ増加しました。

流動性準備金は短期債務純額の 2 倍以上に達しました(中央銀行との置き換えを除く)。

この流動性準備金の増加は、主に顧客の資金流入の増加と中長期資金調達計画の実施によるものです。

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金(ECB の資金供給に依拠した後)を維持する取組みを継続しています。ヘアーカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,260 億ユーロとなりました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2023 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の前年比平均 LCR レシオは、それぞれ 150.8%と 145.2%でした。月末時点の LCR レシオは、クレディ・アグリコル・グループが 143.3%(869 億ユーロの余剰に相当)、クレディ・アグリコル S.A.が 144%(785 億ユーロの余剰に相当)でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回りました。

加えて、クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率(NSFR)は 100%を超え、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合し、100%超という MTP 目標を上回っています。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

当グループの主要発行体は 2023 年 9 月 30 日時点で、中・長期債によって市場で 566 億ユーロ相当額を調達し⁹¹、⁹²、このうちの 44%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。具体的には、グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル CIB はストラクチャード形式で 140 億ユーロを発行しました。
- クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスは ABS 証券化の形で 58 億ユーロを発行し、クレディ・アグリコル・オートバンク(CAAB)を介して 19 億ユーロ相当の MTN を発行しました。
- クレディ・アグリコル・アシュアランスは 10 年ティア 2 債を 5 億ユーロで発行し、10 月に永久劣後債(FR 0012444750 および FR 0012222297)を 5 億ユーロで買い戻す提案を行いました。

当グループの中長期の資金調達の内訳は以下の通りです。

- 担保付き資金調達 156 億ユーロ
- プレーンバニラ無担保資金調達 194 億ユーロ
- ストラクチャード・ファイナンス 145 億ユーロ
- 機関からの長期預金と CD 71 億ユーロ

さらに、169 億ユーロがオフマーケットの発行により調達され、以下の内訳となりました。

- バンキング・ネットワーク(当グループのリテール・バンキングまたは外部のネットワーク)から 122 億ユーロ
- 国際的な組織または金融機関から 33 億ユーロ
- 国内の借り換え媒体(信用機関 CRH を含む)から 14 億ユーロ

⁹¹ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁹² AT1 発行を除く

2023 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.は公開市場を通じて 248 億ユーロ相当の資金^{93、94}を調達しました。

当行は 248 億ユーロ相当額を調達し、このうち 35 億ユーロ相当額が非優先シニア債、17 億ユーロ相当額がティア 2 債券、121 億ユーロ相当額が優先シニア債、75 億ユーロ相当額が担保付シニア債でした。資金調達は様々な形式と通貨で構成されています。

- 73 億ユーロ⁹⁵
- 58 億 5,000 万米ドル(55 億ユーロ相当)
- 13 億ポンド(14 億ユーロ相当)
- 1,770 億円⁹⁶(12 億ユーロ相当)
- 6 億スイスフラン(7 億ユーロ相当)
- 9 億豪ドル(6 億ユーロ相当)
- 9 億シンガポールドル(6 億ユーロ相当)
- 10 億香港ドル(1 億ユーロ相当)
- 10 億中国元(1 億ユーロ相当)

今年初めから、クレディ・アグリコル S.A.の MLT は借り換えの 58%をユーロ以外の通貨で発行しています^{97、98}。

2023 年 1 月 3 日、クレディ・アグリコル S.A.は 12 億 5,000 万ユーロで NC6 年 AT1 永久債を発行し、当初の利率は 7.25%でした。

2023 年 9 月末時点で、クレディ・アグリコル S.A.は 248 億ユーロを発行し、2023 年の MLT 市場資金調達計画 250 億ユーロのうち 99%を完了しました。

⁹³ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁹⁴ AT1 発行を除く

⁹⁵ 担保付きシニア債を除く

⁹⁶ 担保付きシニア債を除く

⁹⁷ 担保付きシニア債を除く

⁹⁸ AT1 発行を除く

付属資料 1－特殊要因（クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.）

クレディ・アグリコル・グループ：特殊要因、2023 年第 3 四半期、2022 年第 3 四半期、2023 年 9 ヶ月累計期間、2022 年 9 ヶ月累計期間

€m	Q3-23		Q3-22		9M-23		9M-22	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	2	2	14	10	(21)	(15)	5	4
Loan portfolio hedges (LC)	(2)	(1)	(14)	(11)	(26)	(19)	59	44
Home Purchase Savings Plans (LCL)	52	38	-	-	52	38	34	26
Home Purchase Savings Plans (CC)	230	171	-	-	230	171	53	39
Home Purchase Savings Plans (RB)	118	88	-	-	118	88	412	306
Reclassification of held-for-sale operations - NBI (IRB)	-	-	-	-	-	-	0	0
Mobility activities reorganisation (SFS)	1	0	-	-	300	214	-	-
Exceptional provisioning on moratoria Poland (IRB)	-	-	(21)	(17)	-	-	(21)	(17)
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	-	-	42	42	-	-
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	-	-	21	21	-	-
Check Image Exchange penalty (RB)	-	-	-	-	42	42	-	-
Total impact on revenues	402	298	(22)	(17)	758	581	543	401
Creval integration costs (IRB)	-	-	-	-	-	-	(30)	(18)
Lyxor integration costs (AG)	-	-	(9)	(4)	-	-	(59)	(31)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	(18)	(13)	-	-
Total impact on operating expenses	-	-	(9)	(4)	(18)	(13)	(90)	(49)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	(85)	(61)	-	-
Provision for own equity risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	-	-	(195)	(195)
Total impact on cost of credit risk	-	-	-	-	(85)	(61)	(195)	(195)
Mobility activities reorganisation (SFS)	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)	-	-
Total impact equity-accounted entities	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	61	45	-	-	89	57	-	-
Total impact on Net income on other assets	61	45	-	-	89	57	-	-
Capital gain La Médicale (GEA)	-	-	101	101	-	-	101	101
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	-	-	-	-	-	-	(7)	(10)
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	-	-	101	101	-	-	94	91
Total impact of specific items	436	317	71	79	705	525	352	248
Asset gathering	-	-	92	97	-	-	42	70
French Retail banking	170	126	-	-	233	189	446	331
International Retail banking	-	-	(21)	(17)	-	-	(253)	(240)
Specialised financial services	35	19	-	-	247	159	-	-
Large customers	1	0	(1)	(0)	(47)	(35)	64	48
Corporate centre	230	171	-	-	272	213	53	39

*税引前および少数株主持分前の影響額

クレディ・アグリコル S.A.: 特殊要因、2023 年第 3 四半期、2022 年第 3 四半期、2023 年 9 ヶ月累計期間、2022 年 9 ヶ月累計期間

€m	Q3-23		Q3-22		9M-23		9M-22	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	2	2	14	10	(21)	(15)	5	4
Loan portfolio hedges (LC)	(2)	(1)	(14)	(10)	(26)	(19)	59	43
Home Purchase Savings Plans (FRB)	52	37	-	-	52	37	34	24
Home Purchase Savings Plans (CC)	230	171	-	-	230	171	53	39
Mobility activities reorganisation (SFS)	1	0	-	-	300	214	-	-
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	-	-	42	42	-	-
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	-	-	21	20	-	-
Exceptional provisionning on moratoria Poland (IRB)	-	-	(21)	(17)	-	-	(21)	(17)
Total impact on revenues	284	209	(22)	(17)	598	450	131	93
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	(18)	(13)	-	-
Creval integration costs (IRB)	-	-	-	-	-	-	(30)	(16)
Lyxor integration costs (AG)	-	-	(9)	(4)	-	-	(59)	(30)
Total impact on operating expenses	-	-	(9)	(4)	(18)	(13)	(90)	(46)
Provision for own equity risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	-	-	(195)	(195)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	(85)	(61)	-	-
Total impact on cost of credit risk	-	-	-	-	(85)	(61)	(195)	(195)
Mobility activities reorganisation (SFS)	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)	-	-
Total impact equity-accounted entities	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	61	45	-	-	89	57	-	-
Total impact Net income on other assets	61	45	-	-	89	57	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	-	-	-	-	-	-	(7)	(10)
Capital gain La Médicale (GEA)	-	-	101	101	-	-	101	101
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	-	-	101	101	-	-	94	91
Total impact of specific items	318	227	71	79	545	394	(60)	(57)
Asset gathering	-	-	92	97	-	-	42	71
French Retail banking	52	37	-	-	73	57	34	24
International Retail banking	-	-	(21)	(17)	-	-	(253)	(238)
Specialised financial services	35	19	-	-	247	159	-	-
Large customers	1	0	(1)	(0)	(47)	(34)	64	47
Corporate centre	230	171	-	-	272	213	53	39

*税引前および非支配株主持分前の影響額

付属資料 2－クレディ・アグリコル・グループ：部門別損益計算書

クレディ・アグリコル・グループ－部門別寄与(2023 年第 3 四半期と 2022 年第 3 四半期)								
In €m	Q3-23 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,345	996	1,046	1,657	883	1,888	(567)	9,249
Operating expenses excl. SRF	(2,328)	(589)	(522)	(718)	(424)	(1,139)	454	(5,265)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,018	407	524	939	460	749	(113)	3,984
Cost of risk	(254)	(70)	(126)	(0)	(224)	(13)	(6)	(693)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	1	-	1	24	5	6	0	37
Net income on other assets	0	18	1	(5)	57	(2)	(0)	69
Income before tax	765	355	400	958	298	740	(119)	3,397
Tax	(178)	(79)	(118)	(221)	(77)	(203)	65	(810)
Net income from discounted or held-for-sale operations	(0)	-	2	-	(0)	-	-	2
Net income	587	277	284	737	220	537	(53)	2,588
Non-controlling interests	(0)	(0)	(42)	(110)	(17)	(39)	4	(204)
Net income Group Share	587	277	242	628	204	497	(49)	2,384

In €m	Q3-22 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,335	940	1,512	823	699	1,607	(694)	8,222
Operating expenses excl. SRF	(2,226)	(572)	(713)	(503)	(358)	(978)	406	(4,943)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,109	368	799	320	341	630	(288)	3,280
Cost of risk	(273)	(54)	(0)	(119)	(151)	(34)	(5)	(636)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	0	-	24	0	82	5	0	111
Net income on other assets	1	0	(2)	0	6	1	0	6
Income before tax	837	314	821	202	278	602	(293)	2,762
Tax	(209)	(75)	(213)	(61)	(47)	(156)	25	(736)
Net income from discounted or held-for-sale operations	-	-	114	9	1	(1)	(0)	123
Net income	628	240	721	151	232	445	(268)	2,149
Non-controlling interests	(0)	2	(104)	(27)	(27)	(27)	6	(178)
Net income Group Share	628	242	617	124	205	418	(262)	1,971

クレディ・アグリコル・グループ ― 部門別寄与(2023 年 9 ヶ月累計期間と 2022 年 9 ヶ月累計期間)

	9M-23 (stated)							
In €m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	10,032	2,891	3,040	5,144	2,717	5,844	(1,946)	27,722
Operating expenses excl. SRF	(7,217)	(1,742)	(1,542)	(2,148)	(1,224)	(3,298)	1,389	(15,782)
SRF	(111)	(44)	(40)	(6)	(29)	(312)	(77)	(620)
Gross operating income	2,704	1,105	1,458	2,989	1,465	2,234	(634)	11,321
Cost of risk	(831)	(205)	(366)	(1)	(686)	(81)	(8)	(2,179)
Equity-accounted entities	9	-	1	73	90	17	-	190
Net income on other assets	6	21	1	(5)	81	3	(1)	107
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	1,887	921	1,095	3,057	950	2,173	(643)	9,438
Tax	(467)	(217)	(321)	(696)	(254)	(561)	222	(2,293)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(0)	-	7	1	(0)	-	-	7
Net income	1,421	704	781	2,361	696	1,612	(421)	7,153
Non-controlling interests	(1)	(0)	(121)	(343)	(61)	(93)	(0)	(619)
Net income Group Share	1,420	704	660	2,018	635	1,519	(421)	6,534
	9M-22 (stated)							
In €m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	10,760	2,936	4,269	2,457	2,072	5,300	(1,841)	25,953
Operating expenses excl. SRF	(6,911)	(1,740)	(2,138)	(1,521)	(1,084)	(2,905)	1,278	(15,021)
SRF	(156)	(69)	(7)	(38)	(34)	(442)	(56)	(803)
Gross operating income	3,693	1,128	2,123	898	954	1,953	(620)	10,129
Cost of risk	(830)	(158)	(6)	(511)	(388)	(236)	(11)	(2,139)
Equity-accounted entities	5	-	64	2	240	11	0	323
Net income on other assets	25	5	1	6	4	0	(0)	41
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	2,893	974	2,184	395	810	1,729	(631)	8,354
Tax	(725)	(250)	(544)	(173)	(161)	(435)	78	(2,211)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	124	21	4	(1)	-	148
Net income	2,168	724	1,764	243	652	1,292	(553)	6,291
Non-controlling interests	(1)	(0)	(310)	(85)	(83)	(63)	2	(539)
Net income Group Share	2,168	724	1,454	159	569	1,229	(551)	5,752

付属資料 3 － クレディ・アグリコル S.A.: 部門別実績

クレディ・アグリコル S.A. － 部門別実績－ 2023 年第 3 四半期と 2022 年第 3 四半期

In €m	Q3-23 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,656	1,888	883	996	1,024	(103)	6,343
Operating expenses excl. SRF	(718)	(1,139)	(424)	(589)	(504)	(2)	(3,376)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	937	748	460	407	520	(105)	2,967
Cost of risk	(0)	(13)	(224)	(70)	(121)	(2)	(429)
Equity-accounted entities	24	6	5	-	1	(12)	23
Net income on other assets	(5)	(2)	57	18	1	(0)	69
Income before tax	956	739	298	355	401	(119)	2,630
Tax	(221)	(203)	(77)	(79)	(118)	65	(633)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(0)	-	2	-	2
Net income	736	536	220	277	285	(55)	1,999
Non-controlling interests	(114)	(48)	(17)	(12)	(60)	0	(251)
Net income Group Share	621	488	204	264	225	(55)	1,748

In €m	Q3-22 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,502	1,607	699	940	804	(232)	5,321
Operating expenses excl. SRF	(713)	(978)	(358)	(572)	(486)	(21)	(3,127)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	789	630	341	368	319	(252)	2,195
Cost of risk	(0)	(34)	(151)	(54)	(120)	(1)	(360)
Equity-accounted entities	24	5	82	-	0	(9)	102
Net income on other assets	(2)	1	6	0	0	0	5
Income before tax	811	602	278	314	199	(262)	1,942
Tax	(211)	(156)	(47)	(75)	(60)	17	(533)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	114	(1)	1	-	9	(0)	123
Net income	714	445	232	240	148	(246)	1,533
Non controlling interests	(106)	(33)	(27)	(13)	(38)	1	(217)
Net income Group Share	607	412	205	227	110	(245)	1,316

クレディ・アグリコル S.A. ー 部門別実績(2023 年 9 ヶ月累計期間と 2022 年 9 ヶ月累計期間)

	9M-23 (stated)						
In €m	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	5,133	5,844	2,717	2,891	2,975	(421)	19,140
Operating expenses excl. SRF	(2,148)	(3,298)	(1,224)	(1,742)	(1,491)	(20)	(9,922)
SRF	(6)	(312)	(29)	(44)	(40)	(77)	(509)
Gross operating income	2,979	2,234	1,465	1,105	1,444	(519)	8,709
Cost of risk	(1)	(81)	(686)	(205)	(362)	(2)	(1,338)
Equity-accounted entities	73	17	90	-	2	(45)	136
Net income on other assets	(5)	3	81	21	1	(0)	102
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	3,047	2,173	950	921	1,085	(566)	7,609
Tax	(699)	(561)	(254)	(217)	(320)	218	(1,832)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	1	-	(0)	-	7	-	7
Net income	2,349	1,612	696	704	772	(348)	5,785
Non controlling interests	(353)	(125)	(61)	(31)	(172)	(27)	(771)
Net income Group Share	1,996	1,486	635	673	600	(375)	5,014
	9M-22 (stated)						
In €m	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	4,245	5,301	2,072	2,936	2,403	(432)	16,525
Operating expenses excl. SRF	(2,138)	(2,905)	(1,084)	(1,740)	(1,474)	(43)	(9,383)
SRF	(7)	(442)	(34)	(69)	(38)	(56)	(647)
Gross operating income	2,100	1,954	954	1,128	891	(531)	6,495
Cost of risk	(6)	(236)	(388)	(158)	(510)	(5)	(1,303)
Equity-accounted entities	64	11	240	-	2	(27)	291
Net income on other assets	1	0	4	14	6	0	26
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	2,160	1,730	810	983	389	(563)	5,509
Tax	(537)	(436)	(161)	(250)	(172)	73	(1,483)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	124	(1)	4	-	21	-	147
Net income	1,747	1,293	652	733	238	(490)	4,174
Non controlling interests	(320)	(82)	(83)	(33)	(115)	(18)	(651)
Net income Group Share	1,427	1,211	569	700	123	(508)	3,523

付属資料 4 – 1 株当たりのデータ

クレディ・アグリコル S.A. – 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び RoTE

Crédit Agricole S.A. – data per share

(€m)		Q3-2023 IFRS17	Q3-2022 IFRS4	9M-23 IFRS17	9M-22 IFRS4
Net income Group share - stated		1,748	1,352	5,014	3,880
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(136)	(119)	(371)	(327)
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	1,612	1,233	4,643	3,553
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,043	3,029	3,031	2,957
Net earnings per share - stated	[A]/[B]	0.53 €	0.41 €	1.53 €	1.20 €
Underlying net income Group share (NIGS)		1,520	1,273	4,620	3,937
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	1,384	1,154	4,249	3,610
Net earnings per share - underlying	[C]/[B]	0.46 €	0.38 €	1.40 €	1.22 €

(€m)		30/09/23 IFRS17	30/09/22 IFRS4
Shareholder's equity Group share		69,416	64,295
- AT1 issuances		(7,235)	(5,988)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		1,644	3,338
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]	63,825	61,644
- Goodwill & intangibles** - Group share		(17,255)	(18,386)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]	46,570	43,258
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,051.7	3,039.5
NBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	20.9 €	20.3 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	15.3 €	14.2 €

* dividend proposed to the Board meeting to be paid

** including goodwill in the equity-accounted entities

(€m)		9M-23 IFRS17	9M-22 IFRS4
Net income Group share - stated	[K]	5,014	3,880
Impairment of intangible assets	[L]	0	0
IFRIC	[M]	-542	-682
Stated NIGS annualised	[N] = ([K]-[L]-[M])*4/3+[M]	6,866	5,401
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, annualised	[O]	-495	-436
Stated result adjusted	[P] = [N]+[O]	6,371	4,965
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg (3)	[J]	43,200	40,195
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]	14.7%	12.4%
Underlying Net income Group share	[Q]	4,620	3,937
Underlying NIGS annualised	[R] = ([Q]-[M])*4/3+[M]	6,341	5,477
Underlying NIGS adjusted	[S] = [R]+[O]	5,846	5,041
Underlying ROTE adjusted(%)	= [S] / [J]	13.5%	12.5%

***** 当期の配当予想を含む

(1) 2022 年 12 月 31 日から 2023 年 9 月 30 日に算出された普通株に起因する再評価されていない NTBВ の平均

(2) RoTE は、年換算後の基礎純利益グループ帰属分、および線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づき算出。

代替的業績指標⁹⁹

NBV（再評価されない純資産額）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019 年第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

デフォルトになりかけている債権。融資先は、次の 2 つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている 2019 年 5 月 20 日付の指令(EU)2019/879 は BRRD を修正し、2020 年 12 月 21 日付オールドナンス 2020-1636 によってフランス法に置き換えられました。

⁹⁹ APM は、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、基礎純利益グループ帰属分や RoTE などの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各 APM 指標は、その定義において会計データとマッチングされます。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファーに相当します。BRRD2 の下で MREL レシオは、リスク・ウェイト資産 (RWA) 並びにレバレッジ・エクスポージャーの比率 (LRE) として表される、適格資本と債務の金額として計算されます。合計 MREL レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債 (満期まで 1 年以上のもの) といった中央銀行及びクレディ・アグリコル・ネットワークの関連機関発行の適格債務です。

減損 (又は要注意) 債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸出金総額で除して算出されます。

減損 (又は要注意) 債権比率

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

TLAC

金融安定理事会 (FSB) は、グローバルなシステム上重要な銀行 (G-SIBs) のバйлインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力 (TLAC) レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がバйлインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行 (したがってクレディ・アグリコル・グループ) に適用されます。

TLAC レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、クレディ・アグリコル S.A. が発行した満期まで 1 年以上の劣後債及び適格非優先シニア債です。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益 (損失)。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎純利益グループ帰属分

会社の実際の利益を分かりやすくするため、基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因 (非経常的項目や例外的項目) 控除後の表示純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE (有形株主資本利益率)

RoTE (有形株主資本利益率) は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算 (第 1 四半期 $\times$ 4、上半期 $\times$ 2、9 ヶ月累計期間 $\times$ 4/3) し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの 2023 年第 3 四半期および 9 ヶ月累計期間の財務情報は、本プレゼンテーション、添付の付属資料、プレスリリースから構成されています。これらは、<https://www.credit-agricole.com/en/finance/financial-publications> で入手可能です。

本プレスリリースは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980 (第 1 章第 1 条 d) の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準および比較可能性

2023 年 9 月 30 日までの 6 ヶ月間の数値は、欧州連合で採択され、同日時点で適用される IFRS 及び適切な健全性規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

特に明記されていない限り、本プレゼンテーションに示された 2022 年の数値はすべて、IFRS 第 17 号の見積もりベースです。

注記：クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの連結範囲は、クレディ・アグリコル S.A. 2022 ユニバーサル登録文書とその A.01 改訂版（クレディ・アグリコル・グループに関するすべての規制情報を含む）が AMF（フランス金融市場局）に提出されて以降、大きな変更は加えていません。

表および分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

2023 年 6 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・オートバンクは、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスが FCA バンク 100% を買収して設立された新会社の名称です。クレディ・アグリコル・オートバンクは、クレディ・アグリコル S.A. の連結財務諸表において完全連結されています。

2023 年 6 月 30 日時点で、Leasys は CACF と Stellantis の新しい共同子会社です。この法人は、クレディ・アグリコル S.A. の連結財務諸表において持分法を適用して連結されています。

2023 年 9 月 30 日に、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスは欧州 6 カ国における ALD および LeasePlan の事業の買収を完了しました。この買収は、クレディ・アグリコル・オートバンクの子会社である Drivalia と Leasys により実行されています。

2023 年 9 月 30 日に、ジャージーおよび英国の事業体を除き、欧州における RBC Investor Services の買収が完了しました。この事業体は、CACEIS Investor Services Bank（以下「ISB」）に名称変更されました。ISB は、CACEIS の子会社であるクレディ・アグリコル S.A. の連結範囲に含まれています。

決算スケジュール

2024 年 2 月 8 日	2023 年第 4 四半期及び 2023 年通年の決算発表
2024 年 5 月 3 日	2024 年第 1 四半期の決算発表
2024 年 5 月 22 日	総会
2024 年 8 月 1 日	2024 年第 2 四半期及び上半期の決算発表
2024 年 11 月 6 日	2024 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関株主	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+ 33 800 000 777 (フリーダイヤルーフランスのみ)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
セシル・ムートン	+ 33 1 57 72 86 79	cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr
株式 IR 担当:		
ジャン=ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asserat@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
ジョゼフィーヌ・ブルアール	+ 33 1 43 23 48 33	josephine.brouard@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr
アナベル・ウィリアス	+ 33 1 43 23 55 52	annabelle.wiriath@credit-agricole-sa.fr
信用投資家および格付機関担当:		
リタ・アラミ・ハッサーニ	+ 33 1 43 23 15 27	rhita.alamihassani@credit-agricole-sa.fr
グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	Gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
Florence Quintin de Kercadio	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com - www.creditagricole.info でご確認いただけます。



Crédit_Agricole



Crédit Agricole Group



creditagricole_sa